第５章　各港の港湾整備計画の考え方

１．港湾整備計画に示す施設の定義

凡例	備考（※定義）
【継続施設】【整備済】	・整備計画（平成 28 年度策定）に位置付けている施設
【追加施設】	・今回（令和 3 年度）新たに計画した施設
【構想】	・構想段階にある施設

（１）元町港 66
（２）岡田港 68
（３）波浮港 70
（４）利島港 72
（５）新島港 74
（６）神津島港 76
（７）三池港 78
（８）御蔵島港 80
（９）神湊港 82
（10）八重根港 84
（11）青ヶ島港 86

（１）元町港

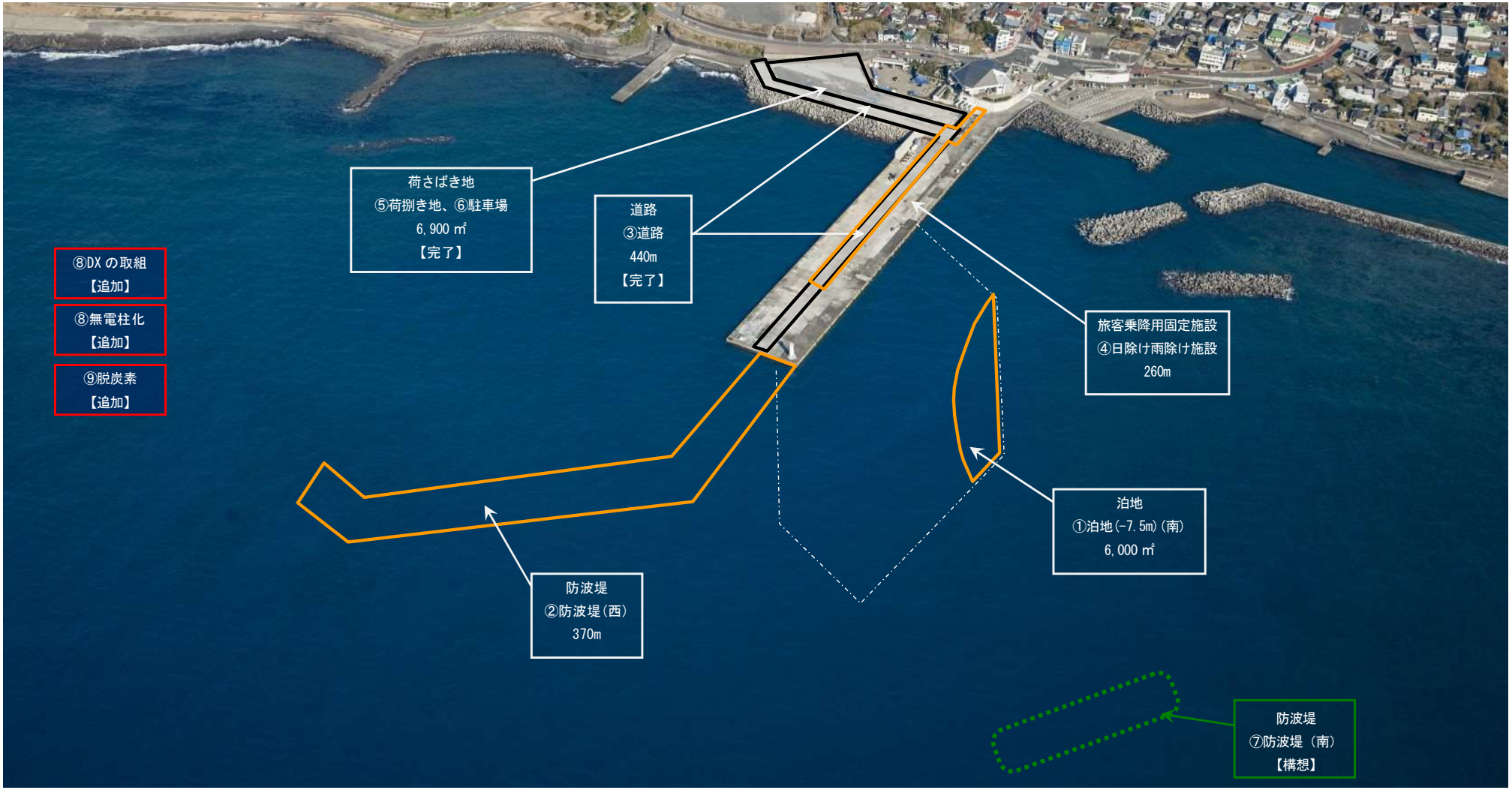
①整備計画の基本的な考え方

◇伊豆諸島随一の**大島の玄関港・拠点港**として機能している
◇乗降と荷役の安全性・利便性・効率性の向上を目指した**日除け雨除け施設等の整備**を推進する
◇一島二港方式で**貨客船の就航率９７．５％を目指すとともに、高速ジェット船の安定した就航を目指す**
◇火山噴火等大規模自然災害の際の島外避難港として、**単独で貨客船就航率９７．５％を目指す**
◇情勢の変化に対する新たな取り組みとして、気候変動への対応、脱炭素、無電柱化等を検討する。

②具体的な課題・整備内容・効果等について

課　題	該当する基本方針と整備の方向性																整備する施設	期待される効果
	1.海上交通の充実		2.安全性･利便性の向上					3.地域振興への寄与			4.自然災害への対応				5.環境との調和･保全･活用			
	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)		
	貨客船の就航率向上	高速ジェット船の就航率向上	乗降と荷役の安全性・利便性・効率性の向上	ユニバーサルデザイン化への配慮	持続可能なインフラ管理	離島港湾DXの取組	ICT技術による離島港湾工事の効率化	地域振興活動拠点の整備	小型船施設整備	賑わい創出の取組	噴火等の大規模自然災害への対応	津波への対応	気候変動への対応	無電柱化の推進	自然環境・周辺環境に配慮した施設整備	脱炭素の取組		
定期貨客船等の安全・安定就航の確保	○																①泊地(-7.5m)(南)【継続施設】	荒天時における船舶の航行安全性の向上
高速ジェット船接岸岸壁の静穏度向上と乗降時の安全性・快適性の向上		○	○	○									○				②防波堤(西)【継続施設】	静穏度の向上（整備前 82%→整備後 89%）(1 港 2 岸壁)※1
荷役作業時の安全性・効率性の向上			○														③道路【完了】	旅客乗降時のアクセス向上。荷役動線との分離による旅客の安全性向上
船舶乗船時の安全性・快適性の向上			○														④日除け雨除け施設【継続施設】	旅客乗降時のアクセス向上。荷役動線との分離による旅客の安全性向上
港湾施設利用時の快適性向上								○									⑤荷捌き地【完了】	荷役効率の向上
			○														⑥駐車場【完了】	旅客乗降時のアクセス向上。荷役動線との分離による旅客の安全性向上
噴火災害や震災時等にも安定した岸壁利用が可能な港内静穏度の向上											○						②防波堤(西)【継続施設】	静穏度の向上（整備前 82%→整備後 89%）(1 港 2 岸壁)※1
高速ジェット船の安全・安定就航の確保		○															⑦防波堤(南)【構想】	安全性、利便性の向上
デジタル技術による情報の収集・活用の推進						○											⑧DXの取組(ライブカメラ等)【追加】	DXによる効率化
停電・通信障害が発生しない島しょ地域の実現														○			⑨無電柱化【追加】	無電柱化による災害への対策
港湾関連施設から発生する温室効果ガス削減																○	⑩脱炭素等【追加】	温室効果ガスの削減

※1 参考資料４「３．各港単独での稼働率と港形の設定（構想施設は含まない）」に詳細な設定を記載



撮影年月：令和２年２月

【継続施設】【整備済】

【追加施設】

【構想】

（２）岡田港

①整備計画の基本的な考え方

◇静穏度が良好なため、**元町港の補完港**及び**島北部の地域振興拠点、物流拠点**として有益に機能している
◇地域振興への寄与及び津波来襲時の利用者の安全性向上を目指した**船客待合所・津波避難施設の整備**を行ってきた　**完了**
◇一島二港方式で**貨客船の就航率９７．５％を目指すとともに、高速ジェット船の安定した就航を目指す※1**
◇火山噴火等大規模自然災害の際の島外避難港として、**単独で貨客船就航率９７．５％を目指す**
◇情勢の変化に対する新たな取り組みとして、気候変動への対応、脱炭素、無電柱化等を検討する。

②具体的な課題・整備内容・効果等について

課　題	該当する基本方針と整備の方向性																整備する施設	期待される効果
	1.海上交通の充実		2.安全性･利便性の向上					3.地域振興への寄与			4.自然災害への対応				5.環境との調和･保全･活用			
	(1) 貨客船の就航率向上	(2) 高速ジェット船の就航率向上	(1) 乗降と荷役の安全性・利便性・効率性の向上	(2) ユニバーサルデザイン化への配慮	(3) 持続可能なインフラ管理	(4) 離島港湾DXの取組	(5) ICT技術の活用による離島港湾工事の効率化	(1) 地域振興活動拠点の整備	(2) 小型船施設整備	(3) 賑わい創出の取組	(1) 噴火等の大規模自然災害への対応	(2) 津波への対応	(3) 気候変動への対応	(4) 無電柱化の推進	(1) 自然環境・周辺環境に配慮した施設整備	(2) 脱炭素の取組		
客待合所の老朽化				○				○									①船客待合所【完了】	地域振興と乗船者の利便性の向上
荷役の安全性・効率性の向上			○														②道路(A)【継続施設】	旅客乗降時のアクセス向上。荷役動線との分離による旅客の安全性向上
港湾施設を越波から守る			○														③駐車場【継続施設】	旅客乗降時のアクセス向上。荷役動線との分離による旅客の安全性向上
			○														④護岸(防波)(改良)【継続施設】	越波抑制による港湾利用者の安全性の向上
船舶乗船時の安全性・快適性の向上			○														⑤護岸(防波)　【継続施設】	旧船客待合所撤去後の越波・飛沫の抑制
			○														⑥防波堤【構想】	岸壁への越波抑制による港湾利用者の安全性の向上
			○														⑦日除け雨除け施設【追加施設】	旅客乗降時のアクセス向上。
港湾利用者を津波から守る												○					⑧津波避難施設、津波避難通路【完了】	津波来襲時の港湾利用者の安全性向上
岸壁構造の強化											○						⑨緊急輸送用岸壁(-7.5m)【完了】	災害対処能力の向上（救援物資陸揚げや避難者輸送が可能）
デジタル技術による情報の収集・活用の推進						○											⑩DXの取組(ライブカメラ等)【追加】	DXによる効率化
停電・通信障害が発生しない島しょ地域の実現														○			⑪無電柱化【追加】	無電柱化による災害への対策
港湾関連施設から発生する温室効果ガス削減																○	⑫脱炭素等【追加】	温室効果ガスの削減

※1 岡田港の現況稼働率　99.7%（すでに目標の97.5%を達成済）

撮影年月：令和２年 10 月

【継続施設】【整備済】

【追加施設】

【構想】

（３）波浮港

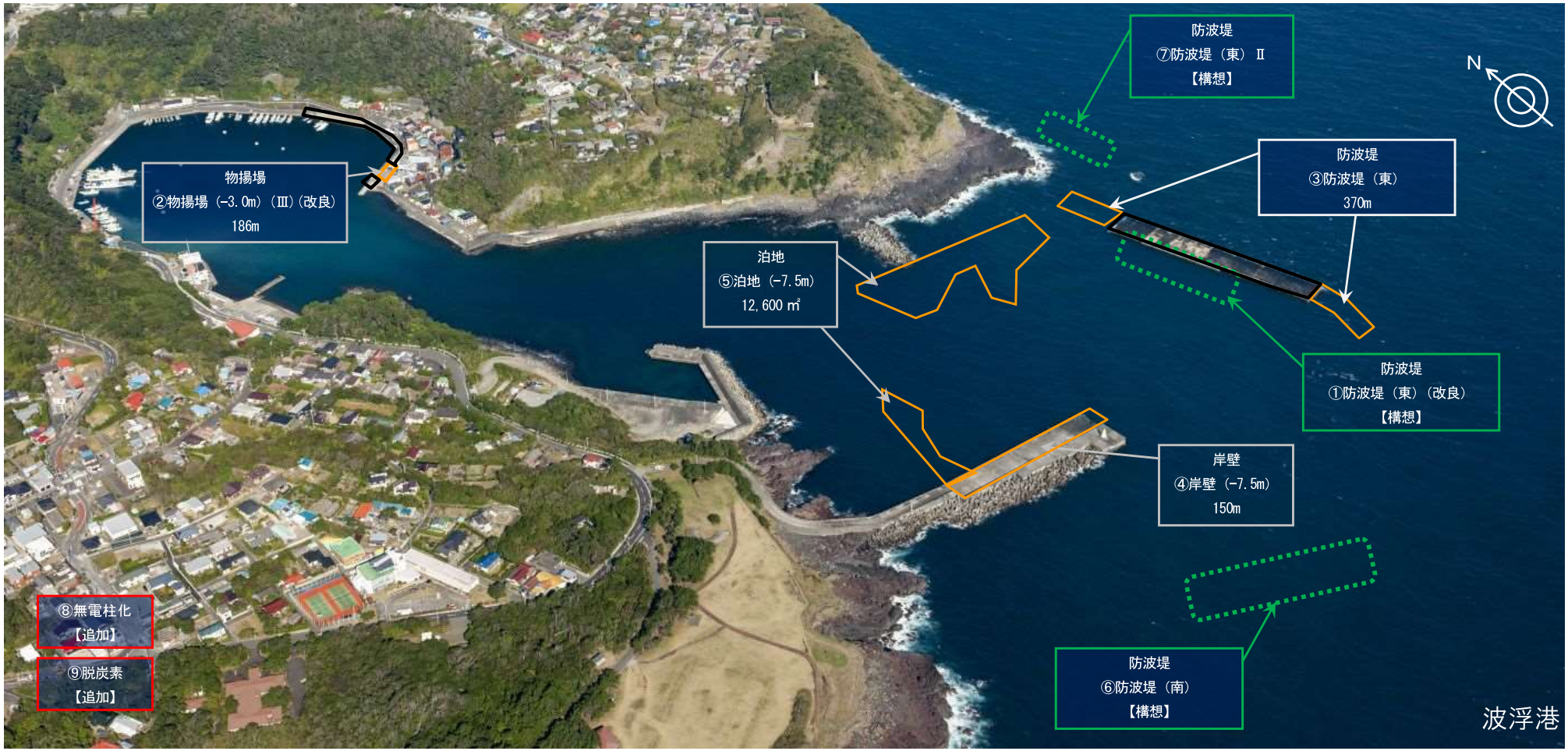
①整備計画の基本的な考え方

◇商港や漁港機能に加え、火山噴火等大規模**自然災害の際の島外避難港**として機能している
◇火山噴火等大規模自然災害の際の島外避難港としての岸壁稼働率向上を目指して**防波堤の整備**を行うとともに、**単独で岸壁稼働率９７．５％**を目指して更なる整備が必要
◇**小型船だまりの安全性・快適性向上**を目指す
◇情勢の変化に対する新たな取り組みとして、気候変動への対応、脱炭素、無電柱化等を検討する。

②具体的な課題・整備内容・効果等について

課　題	該当する基本方針と整備の方向性																整備する施設	期待される効果
	1.海上交通の充実		2.安全性･利便性の向上					3.地域振興への寄与			4.自然災害への対応				5.環境との調和･保全･活用			
	(1) 貨客船の就航率向上	(2) 高速ジェット船の就航率向上	(1) 乗降と荷役の安全性・利便性・効率性の向上	(2) ユニバーサルデザイン化への配慮	(3) 持続可能なインフラ管理	(4) 離島港湾DXの取組	(5) ICT技術による離島港湾工事の効率化	(1) 地域振興活動拠点の整備	(2) 小型船施設整備	(3) 賑わい創出の取組	(1) 噴火等の大規模自然災害への対応	(2) 津波への対応	(3) 気候変動への対応	(4) 無電柱化の推進	(1) 自然環境・周辺環境に配慮した施設整備	(2) 脱炭素の取組		
漁船等小型船の入出港時の安全性の向上									○								①防波堤(東)(改良)【構想】	反射波抑制による小型船の航行安全性の向上
物揚場の安全な利用									○								②物揚場(-3.0m)(Ⅲ)(改良)【継続施設】	小型船施設の機能の向上
荒天時や災害時等に大型貨客船が安全に避難可能な港湾											○						③防波堤(東)　【継続施設】	静穏度の向上（整備前 60%→整備後 71%）※1
											○						④岸壁(-7.5m)【継続施設】	災害対処能力の向上（救援物資陸揚げや避難者輸送が可能）
											○						⑤泊地(-7.5m)【継続施設】	災害対処能力の向上（救援物資陸揚げや避難者輸送が可能）
											○						⑥防波堤(南)【構想】	災害対処能力の向上（救援物資陸揚げや避難者輸送が可能）
小型船溜りの静穏度確保※1)									○		○						⑦防波堤(東)Ⅱ【構想】	小型船の航行安全性の向上
停電・通信障害が発生しない島しょ地域の実現														○			⑧無電柱化【追加】	無電柱化による災害への対策
港湾関連施設から発生する温室効果ガス削減																○	⑨脱炭素【追加】	温室効果ガスの削減

※1 参考資料４「３．各港単独での稼働率と港形の設定（構想施設は含まない）」に詳細な設定を記載



撮影年月：令和２年 11 月

【継続施設】【整備済】　【追加施設】　【構想】

（４）利島港

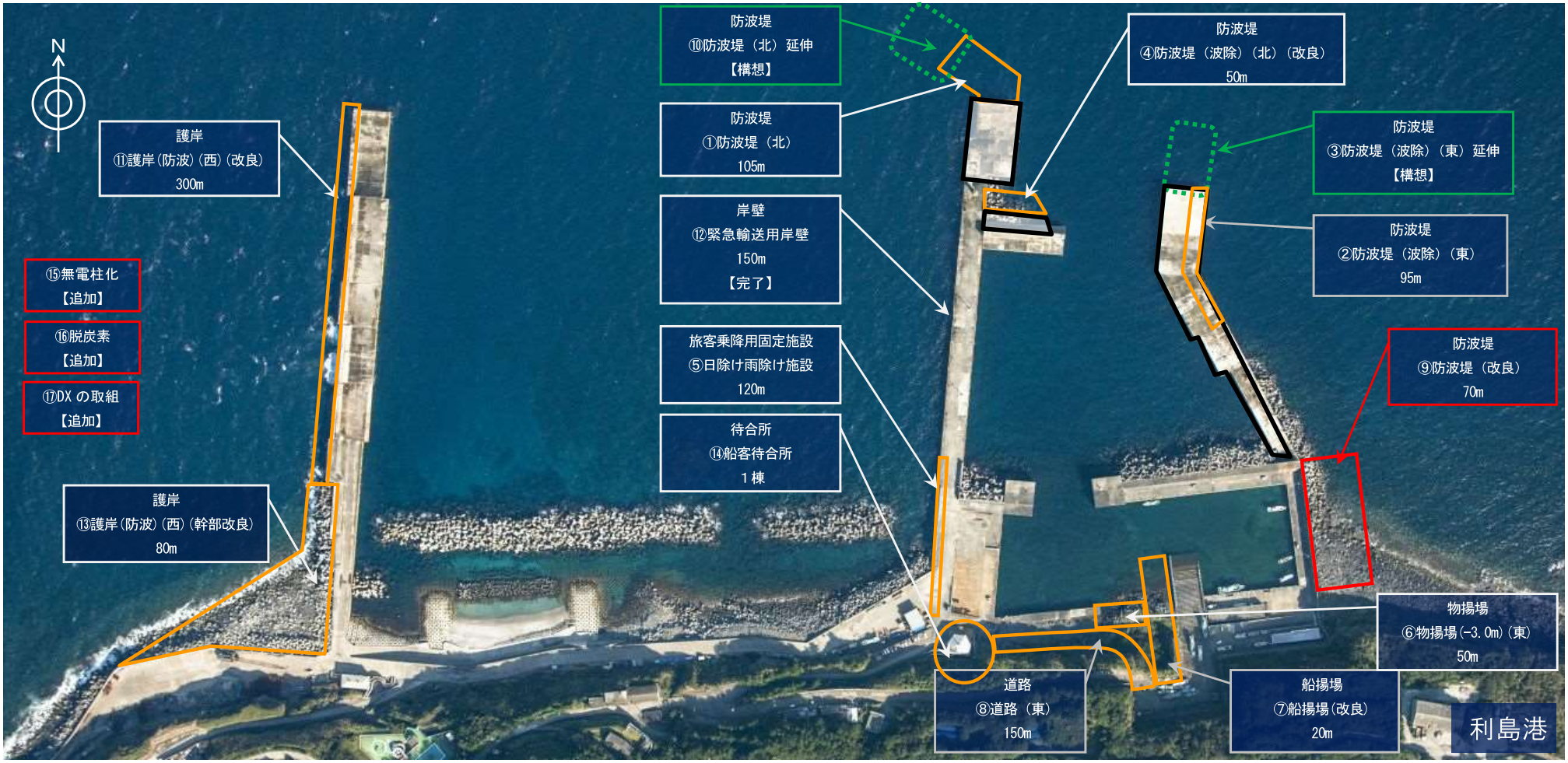
①整備計画の基本的な考え方

◇利島における**他地域との唯一の交流玄関港**であり、人流・物流の拠点として重要な役割を果たしている
◇一港二突堤方式で連続欠航ゼロを目指して貨客船就航率８６．５％※1 及び高速ジェット船の安定した就航のため**防波堤（北）等の整備**を行っている
◇情勢の変化に対する新たな取り組みとして、気候変動への対応、脱炭素、無電柱化等を検討する。

②具体的な課題・整備内容・効果等について

課題	該当する基本方針と整備の方向性																整備する施設	期待される効果
	1.海上交通の充実		2.安全性･利便性の向上					3.地域振興への寄与			4.自然災害への対応				5.環境との調和･保全･活用			
	(1) 貨客船の就航率向上	(2) 高速ジェット船の就航率向上	(1) 乗降と荷役の安全性・効率性・利便性の向上	(2) ユニバーサルデザイン化への配慮	(3) 持続可能なインフラ管理	(4) 離島港湾DXの取組	(5) ICT技術による離島港湾工事の効率化	(1) 地域振興活動拠点の整備	(2) 小型船施設整備	(3) 賑わい創出の取組	(1) 噴火等の大規模自然災害への対応	(2) 津波への対応	(3) 気候変動への対応	(4) 無電柱化の推進	(1) 自然環境・周辺環境に配慮した施設整備	(2) 脱炭素の取組		
貨客船の連続欠航低減	○	○															①防波堤(北)【継続施設】	静穏度の向上（整備前 84%→整備後 85%）(1 港 2 突堤）※2
	○	○															②防波堤(波除)(東)【継続施設】	静穏度の向上（整備前 84%→整備後 85%）(1 港 2 突堤）※2
	○	○															③防波堤(波除)(東)延伸【構想】	小型船溜りの静穏度の向上
岸壁の越波対策	○	○															④防波堤(波除)(北)(改良)【継続施設】	岸壁への越波抑制による港湾利用者の安全性の向上
船舶乗降時の安全性・快適性の向上			○														⑤日除け雨除け施設【継続施設】	船舶乗船時の安全性・快適性の向上
小型船施設の充足率・機能の向上																	⑥物揚場(-3.0m)(東)　【継続施設】	小型船の充足率・機能の向上
									○								⑦船揚場(改良)　【継続施設】	小型船の機能の向上
																	⑧道路(東)【継続施設】	人流・物流の動線分離による安全性・効率性の向上
									○								⑨防波堤（改良）【追加施設】	小型船溜りの越波抑制による港湾利用者の安全性の向上
									○								⑩防波堤(北)延伸【構想】	静穏度の向上
岸壁構造の強化											○						⑪護岸(防波)(西)(改良)【継続施設】	耐波機能の強化
											○						⑫緊急輸送用岸壁(-7.5m)　【完了】	災害対処能力の向上（救援物資陸揚げや避難者輸送が可能）
											○						⑬護岸(防波)(西)(幹部改良)【継続施設】	耐津波機能の向上
船客待合所の老朽化				○													⑭船客待合所【継続施設】	地域振興と乗船者の利便性の向上
デジタル技術による情報の収集・活用の推進						○											⑮DX の取組（ライブカメラ等）【追加】	DX による効率化
停電・通信障害が発生しない島しょ地域の実現														○			⑯無電柱化【追加】	無電柱化による災害への対策
港湾関連施設から発生する温室効果ガス削減																○	⑰脱炭素等【追加】	温室効果ガスの削減

※1 第 2 章 5. 船舶の就航率＜小離島におけるシビルミニマム（就航率と連続欠航数）＞より　※2 参考資料４「３．各港単独での稼働率と港形の設定（構想施設は含まない）」に詳細な設定を記載



撮影年月：令和 2 年 10 月

【継続施設】【整備済】　【追加施設】　【構想】

（５）新島港

①整備計画の基本的な考え方

◇**新島における物流・人流の拠点港**として機能している
◇乗降と荷役の安全性・利便性・効率性の向上のために、**防波堤（北）等の整備**を行っている
◇一島二港方式で**貨客船の就航率９７．５%を目指すとともに、高速ジェット船の安定した就航を目指す**
◇自然災害への対策として**津波避難タワー及び津波避難階段や緊急輸送用岸壁の整備**を行った　**完了**
◇**小型船溜りの安全性・快適性向上**を目指す
◇情勢の変化に対する新たな取り組みとして、気候変動への対応、脱炭素、無電柱化等を検討する。

②具体的な課題・整備内容・効果等について

課　題	該当する基本方針と整備の方向性																整備する施設	期待される効果
	1.海上交通の充実		2.安全性･利便性の向上					3.地域振興への寄与			4.自然災害への対応				5.環境との調和･保全･活用			
	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)		
	貨客船の就航率向上	高速ジェット船の就航率向上	乗降と荷役の安全性・利便性・効率性の向上	ユニバーサルデザイン化への配慮	持続可能なインフラ管理	離島港湾DXの取組	ICT技術による離島港湾工事の効率化	地域振興活動拠点の整備	小型船施設整備	賑わい創出の取組	噴火等の大規模自然災害への対応	津波への対応	気候変動への対応	無電柱化の推進	自然環境・周辺環境に配慮した施設整備	脱炭素の取組		
安定した岸壁利用が可能な港内静穏度の向上	○	○															①防波堤（北）【継続施設】【令和３年度完了予定】	静穏度の向上（整備前 92%→整備後 95%）（１島２港）※2
	○	○															②護岸（防波）（Ⅱ）【継続施設】	静穏度の向上（整備前 96%→整備後 97%）（１島２港）※1
	○	○															③防波堤（北）（延伸）【構想】	静穏度の向上
船舶乗降時の安全性・快適性の向上			○														④道路【継続施設】	旅客乗降時のアクセス向上。荷役動線との分離による旅客の安全性向上
				○													⑤日除け雨除け施設【継続施設】	旅客乗降時のアクセス向上。荷役動線との分離による旅客の安全性向上
小型船だまりの安全性・快適性の向上									○								⑥防波堤（B）（改良）【継続施設】	老朽化した防波堤再整備により、小型船だまりへの越波を抑制
施設背後地の有効利用								○									⑦荷さばき地【継続施設】	荷役効率の向上
津波防災機能の向上												○					⑧津波避難タワー、津波避難階段【完了】	津波来襲時の港湾利用者の安全性向上
小型船施設の充足率・機能の向上										○							⑨マリーナ【継続】	小型船施設の機能性の向上
										○							⑪親水性海浜【継続】	賑わい創出による地域振興への寄与
岸壁構造の強化											○						⑩緊急輸送用岸壁（-7.5m）【完了】	災害対処能力の向上（救援物資陸揚げや避難者輸送が可能）
デジタル技術による情報の収集・活用の推進						○											⑫DXの取組（ライブカメラ等）【追加】	DXによる効率化
停電・通信障害が発生しない島しょ地域の実現														○			⑬無電柱化【追加】	無電柱化による災害への対策
港湾関連施設から発生する温室効果ガス削減																○	⑭脱炭素等【追加】	温室効果ガスの削減

※1 参考資料４「１．貨客船の就航率向上」に詳細な設定を記載
※2 防波堤（北）の整備前の静穏度 92%は、防波堤（北）延長 300m のうち、150m が完了した時点での静穏度（平成 28 年度計画策定時の算出結果）

撮影年月：令和２年２月

【継続施設】【整備済】　【追加施設】　【構想】

（６）神津島港

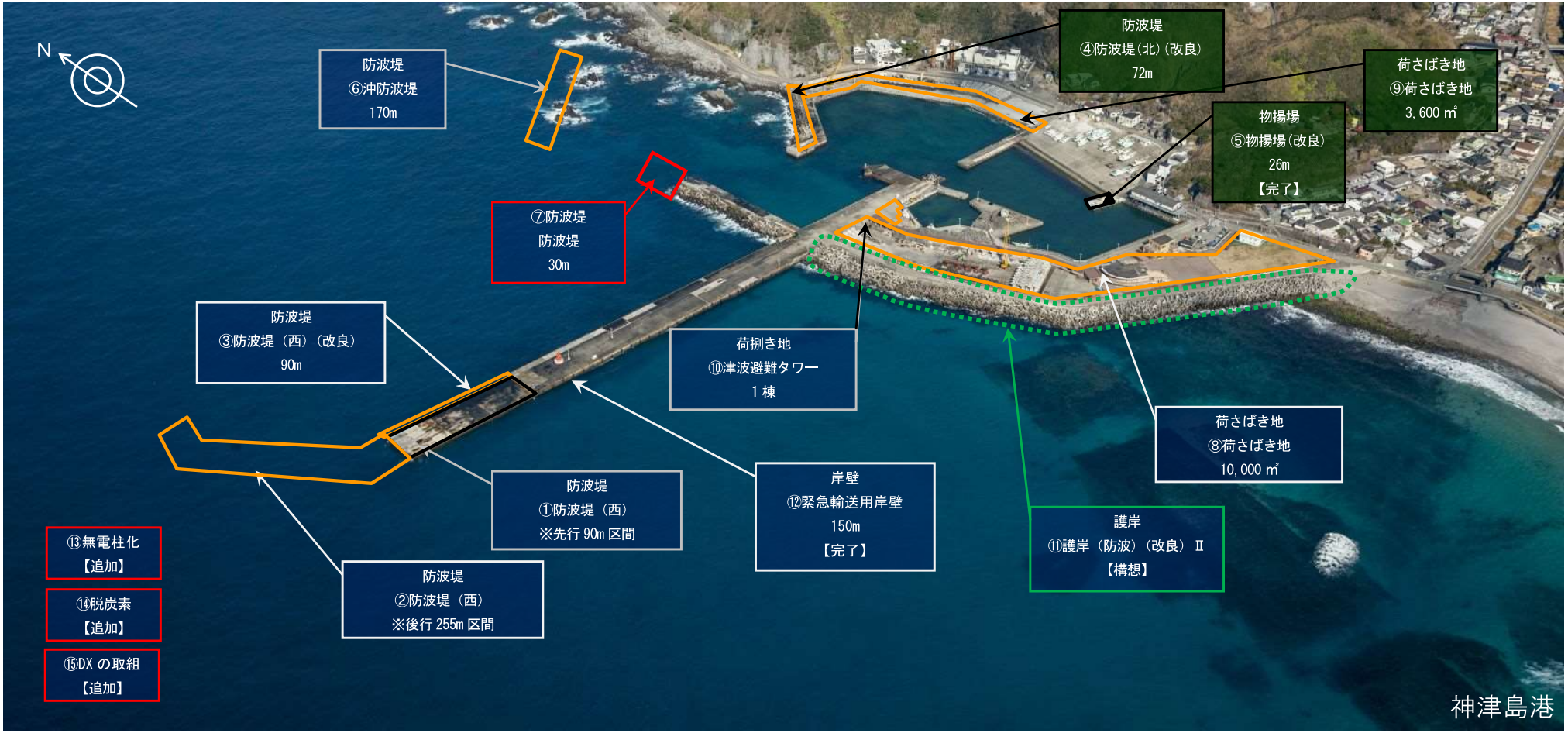
①整備計画の基本的な考え方

◇**神津島における物流・人流の拠点港**として機能している
◇乗降と荷役の安全性・利便性・効率性の向上のために、**防波堤（西）等の整備**を行っている
◇一島二港方式で**貨客船の就航率９７．５％を目指すとともに、高速ジェット船の安定した就航を目指す**
◇自然災害への対策として**津波避難施設の整備**が必要
◇**小型船溜りの安全性・快適性向上**を目指す
◇情勢の変化に対する新たな取り組みとして、気候変動への対応、脱炭素、無電柱化等を検討する

②具体的な課題・整備内容・効果等について

課　題	該当する基本方針と整備の方向性																整備する施設	期待される効果
	1.海上交通の充実		2.安全性･利便性の向上					3.地域振興への寄与			4.自然災害への対応				5.環境との調和･保全･活用			
	(1) 貨客船の就航率向上	(2) 高速ジェット船の就航率向上	(1) 乗降と荷役の安全性・利便性・効率性の向上	(2) ユニバーサルデザイン化への配慮	(3) 持続可能なインフラ管理	(4) 離島港湾DXの取組	(5) ICT技術による離島港湾工事の効率化	(1) 地域振興活動拠点の整備	(2) 小型船施設整備	(3) 賑わい創出の取組	(1) 噴火等の大規模自然災害への対応	(2) 津波への対応	(3) 気候変動への対応	(4) 無電柱化の推進	(1) 自然環境・周辺環境に配慮した施設整備	(2) 脱炭素の取組		
安定した岸壁利用が可能な港内静穏度の向上	○	○															①防波堤（西）【先行区間 90m 整備完了】	静穏度の向上（整備前 95%→整備後 97%）（１島２港）※1
	○	○															②防波堤（西）【継続施設】※後行 255m 区間	静穏度の向上（整備前 95%→整備後 97%）（１島２港）※1
岸壁利用時の安全性・快適性の向上			○														③防波堤（西）（改良）【継続施設】	岸壁と防波堤の連続性を確保することにより、岸壁利用の安全性・利便性向上
小型船だまりの静穏性の向上									○								④防波堤(北)(改良)【継続施設】	越波抑制により小型船だまりの安全性・利便性の向上
									○								⑤物揚場(改良)　【完了】	小型船の利便性向上
									○				○				⑥沖防波堤【継続施設】	消波ブロック設置により泊地(-3.0m)(-4.5m)への越波を抑制し、小型船停泊時の安全性・利便性が向上（整備前 95%→整備後 97%）（１島２港）※1
									○				○				⑦防波堤【追加】	小型船溜り等の静穏度向上（整備前 95%→整備後 97%）（１島２港）※1
荷捌き地の利便性の向上								○									⑧荷さばき地【継続施設】※船客待合所付近	地域振興と利便性の向上(駐車場スペースの拡大)
								○									⑨荷さばき地【継続施設】※小型船施設背後	荷役効率の向上
津波防災機能の向上												○					⑩津波避難タワー【継続施設】	津波来襲時の港湾利用者の安全性向上
港湾施設への越波対策			○														⑪護岸(防波)(改良)(Ⅱ)【構想】	護岸改良により駐車場付近の背後用地への越波を抑制し、利用者の安全性の向上
岸壁構造の強化											○						⑫緊急輸送用岸壁(-7.5m)　【完了】	災害対処能力の向上（救援物資陸揚げや避難者輸送が可能）
デジタル技術による情報の収集・活用の推進						○											⑬DX の取組（ライブカメラ等）【追加】	DX による効率化
停電・通信障害が発生しない島しょ地域の実現														○			⑭無電柱化【追加】	無電柱化による災害への対策
港湾関連施設から発生する温室効果ガス削減																○	⑮脱炭素等【追加】	温室効果ガスの削減

※1 参考資料４「１．貨客船の就航率向上」に詳細な設定を記載



撮影年月：令和 2 年 2 月

【継続施設】【整備済】　【追加施設】　【構想】

（７）三池港

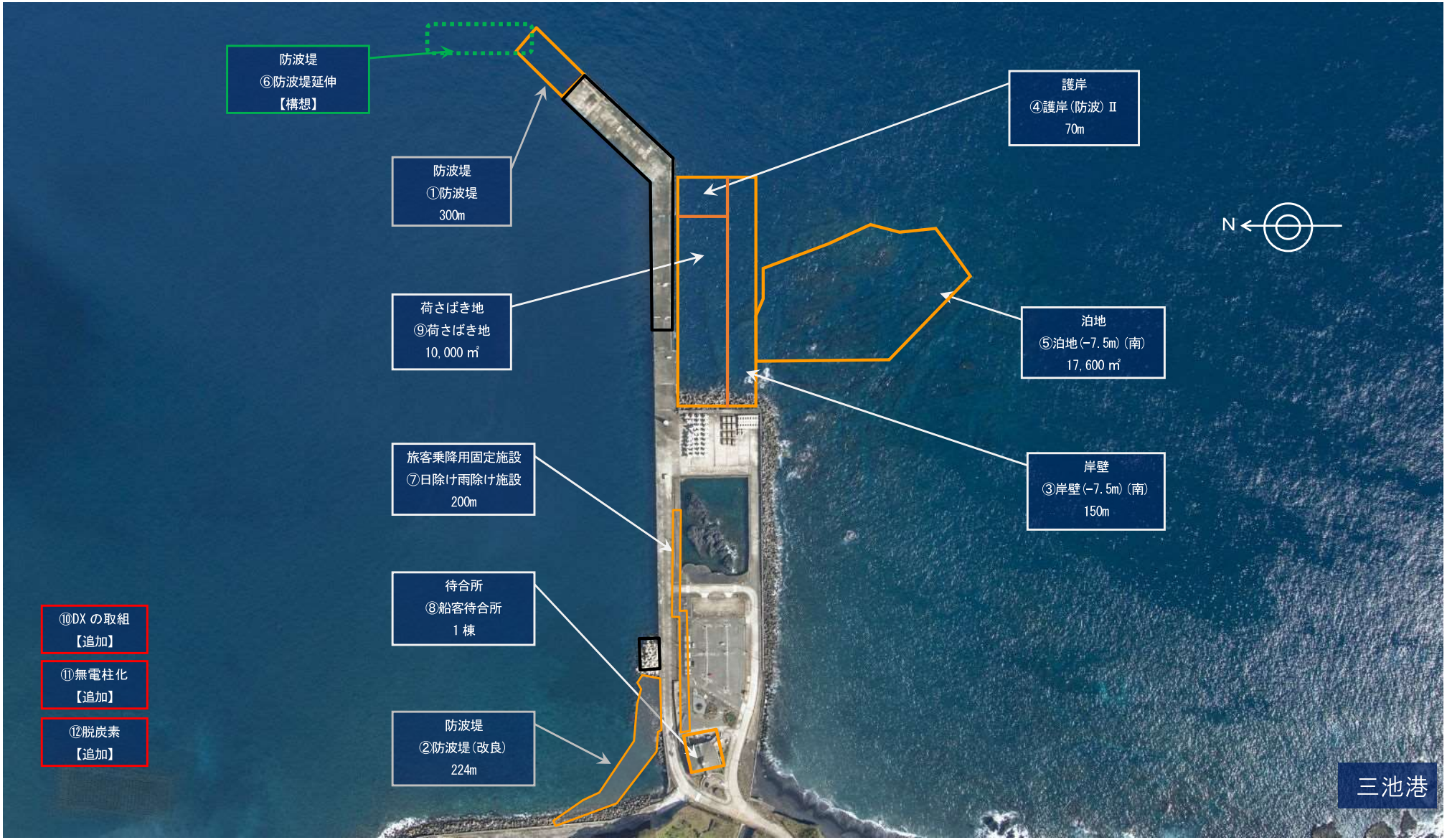
①整備計画の基本的な考え方

◇八丈航路の玄関港であるとともに、**三宅島の人流・物流の拠点港**として機能している
◇一島二港方式で貨客船就航率９７．５％を目指した、**防波堤の整備**を行っている
◇火山噴火等大規模自然災害の際の島外避難港として、**単独で貨客船就航率９７．５％を目指す**
◇情勢の変化に対する新たな取り組みとして、脱炭素、無電柱化等を検討する。

②具体的な課題・整備内容・効果等について

課題	該当する基本方針と整備の方向性																整備する施設	期待される効果
	1.海上交通の充実		2.安全性･利便性の向上					3.地域振興への寄与			4.自然災害への対応				5.環境との調和･保全･活用			
	(1) 貨客船の就航率向上	(2) 高速ジェット船の就航率向上	(1) 乗降と荷役の安全性・利便性・効率性の向上	(2) ユニバーサルデザイン化への配慮	(3) 持続可能なインフラ管理	(4) 離島港湾DXの取組	(5) ICT技術による離島港湾工事の効率化	(1) 地域振興活動拠点の整備	(2) 小型船施設整備	(3) 賑わい創出の取組	(1) 噴火等の大規模自然災害への対応	(2) 津波への対応	(3) 気候変動への対応	(4) 無電柱化の推進	(1) 自然環境・周辺環境に配慮した施設整備	(2) 脱炭素の取組		
貨客船等の安全・安定就航の確保	○										○						①防波堤【継続施設】	静穏度向上（整備前89%※1→整備後92%※2）（1島3港）
	○										○						②防波堤(改良)【継続施設】※名称変更	静穏度向上（整備前89%→整備後93%）（1島3港）
	○										○						③岸壁(-7.5m)(南)【継続施設】	静穏度向上（整備前93%→整備後97%）（1島3港）※3
	○										○						④護岸(防波)Ⅱ【継続施設】	静穏度向上（整備前93%→整備後97%）（1島3港）※3
	○										○						⑤泊地(-7.5m)(南)【継続施設】	荒天時における船舶の航行安全性の向上
	○										○						⑥防波堤延伸【構想】	静穏度及び利便性の向上
船舶乗降時の安全性・快適性の向上			○														④護岸(防波)Ⅱ【継続施設】	越波抑制による港湾利用者の安全性の向上
			○	○													⑦日除け雨除け施設【継続施設】	旅客乗降時のアクセス向上及び荷役導線との分離による旅客の安全性向上
船客待合所の老朽化			○	○													⑧船客待合所【継続施設】	地域振興と乗船者の利便性の向上
施設背後地の有効利用			○														⑨荷さばき地【継続施設】	荷役効率の向上
噴火災害や震災時等にも安定した岸壁利用が可能な港内静穏度の向上	○										○						③岸壁(-7.5m)(南)【継続施設】	静穏度向上（防波堤完成後66→整備後79%）（1港2岸壁）※3
	○										○						④護岸(防波)Ⅱ【継続施設】	静穏度向上（防波堤完成後66→整備後79%）（1港2岸壁）※3
	○										○						⑤泊地(-7.5m)(南)【継続施設】	荒天時における船舶の航行安全性の向上
デジタル技術による情報の収集・活用の推進						○											⑩DXの取組(ライブカメラ等)【追加】	DXによる効率化
停電・通信障害が発生しない島しょ地域の実現														○			⑪無電柱化【追加】	無電柱化による災害への対策
港湾関連施設から発生する温室効果ガス削減																○	⑫脱炭素等【追加】	温室効果ガスの削減

※1 防波堤整備前の就航率(実績)（平成28年度計画策定時の算出結果）※2 静穏度解析上は、三宅島における補完港を阿古漁港・伊ヶ谷漁港の二港で解析している（平成28年度計画策定時の算出結果）
※3 参考資料４「１．貨客船の就航率向上」に詳細な設定を記載



撮影年月：令和 2 年 10 月

【継続施設】【整備済】

【追加施設】

【構想】

（８）御蔵島港

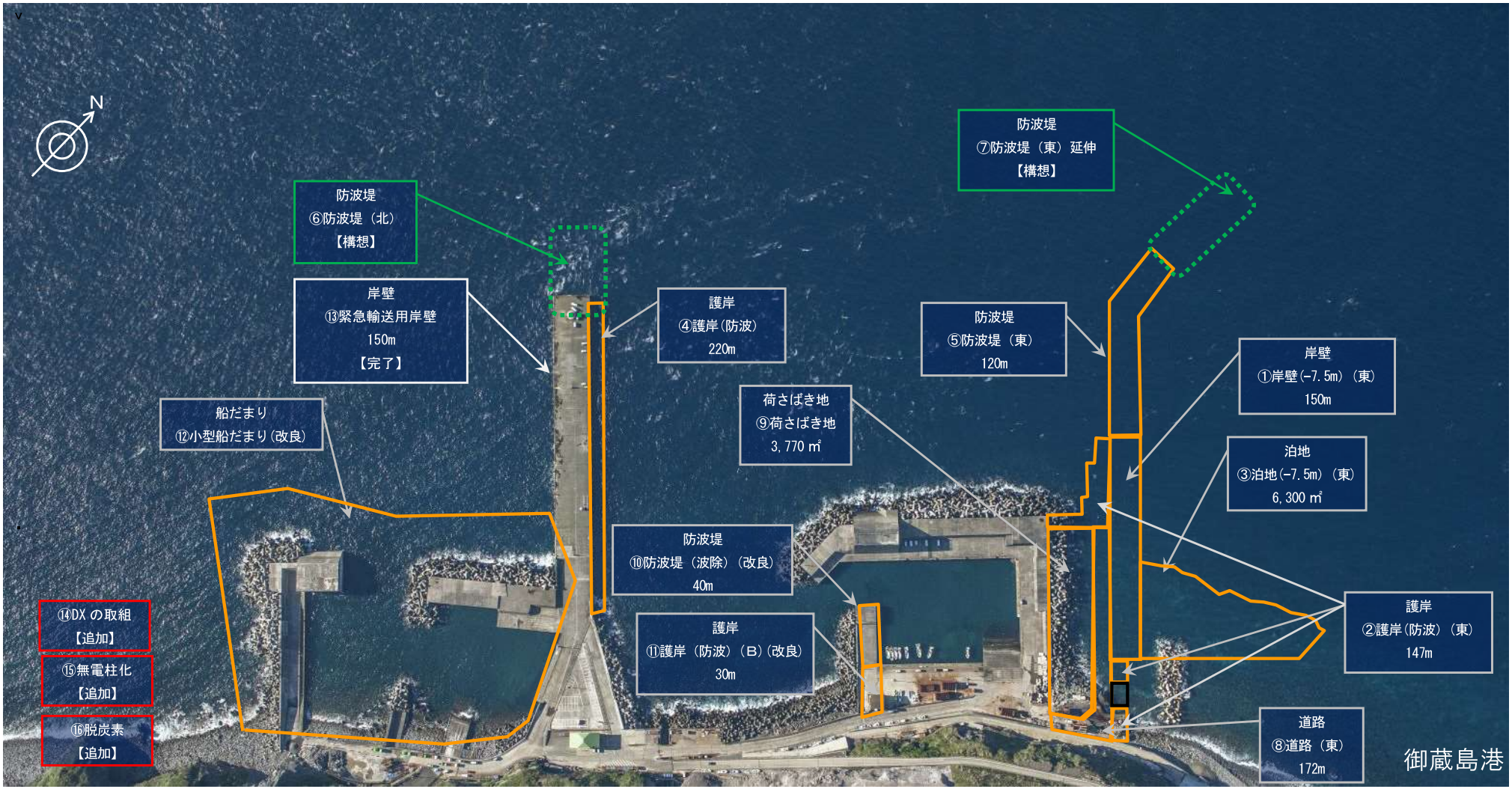
①整備計画の基本的な考え方

◇御蔵島における**他地域との唯一の交流玄関港**であり、人流・物流の拠点として重要な役割を果たしている
◇一港二突堤方式で連続欠航ゼロを目指して貨客船就航率８６．５％※1及び乗降と荷役の安全性・効率性の向上のため
２突堤目の岸壁等の整備に着手している
◇**小型船溜りの安全性・快適性向上**を目指す
◇情勢の変化に対する新たな取り組みとして、脱炭素、無電柱化等を検討する。

具体的な課題・整備内容・効果等について

課　題	該当する基本方針と整備の方向性																整備する施設	期待される効果
	1.海上交通の充実		2.安全性･利便性の向上					3.地域振興への寄与			4.自然災害への対応				5.環境との調和･保全･活用			
	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)		
	貨客船の就航率向上	高速ジェット船の就航率向上	乗降と荷役の安全性・利便性・効率性の向上	ユニバーサルデザイン化への配慮	持続可能なインフラ管理	離島港湾DXの取組	ICT技術による離島港湾工事の効率化	地域振興活動拠点の整備	小型船施設整備	賑わい創出の取組	噴火等の大規模自然災害への対応	津波への対応	気候変動への対応	無電柱化の推進	自然環境・周辺環境に配慮した施設整備	脱炭素の取組		
貨客船の連続欠航低減	○																①岸壁（-7.5m）（東）【継続施設】	静穏度向上（整備前 62.8%→整備後 75.7%）（1 港 2 突堤）※2
	○		○														②護岸(防波)(東)【継続施設】	静穏度向上（整備前 62.8%→整備後 75.7%）（1 港 2 突堤）※2
	○																③泊地(-7.5m)(東)【継続施設】	荒天時における船舶の航行安全性の向上
	○		○														④護岸(防波)【継続施設】	静穏度向上（整備前 62.8%→整備後 75.7%）（1 港 2 突堤）※2
	○																⑤防波堤（東）【継続施設】	静穏度向上（整備前 62.8%→整備後 75.7%）（1 港 2 突堤）※2
	○																⑥防波堤(北)【構想】	静穏度及び利便性の向上
	○																⑦防波堤(東)延伸【構想】	静穏度及び利便性の向上
船舶乗降時の安全性･快適性の向上	○		○														②護岸(防波)(東)【継続施設】	越波抑制による港湾利用者の安全性の向上
	○		○														④護岸(防波)【継続施設】	越波抑制による港湾利用者の安全性の向上
			○														⑧道路(東)【継続施設】	旅客乗降時のアクセス向上 荷役動線との分離による旅客の安全性向上
施設背後地の有効利用			○														⑨荷さばき地【継続施設】	荷役効率の向上
小型船施設の充足率・機能・静穏性の向上									○								⑩防波堤(波除)(改良)【継続施設】	小型船施設の越波抑制による港湾利用者の安全性の向上
									○								⑪護岸(防波)(B)(改良)【継続施設】	小型船施設の越波抑制による港湾利用者の安全性の向上
									○								⑫小型船だまり(改良)【継続施設】	小型船溜りの静穏度の向上
岸壁構造の強化											○						⑬緊急輸送用岸壁(-7.5m)【完了】	災害対処能力の向上(救援物資陸揚げや避難者輸送が可能)
デジタル技術による情報の収集・活用の推進						○											⑭DX の取組（ライブカメラ等）【追加】	DX による効率化
停電・通信障害が発生しない島しょ地域の実現														○			⑮無電柱化【追加】	無電柱化による災害への対策
港湾関連施設から発生する温室効果ガス削減																○	⑯脱炭素等【追加】	温室効果ガスの削減

※1 第 2 章 5. 船舶の就航率＜小離島におけるシビルミニマム（就航率と連続欠航数）＞より　※2 参考資料４「１．貨客船の就航率向上」に詳細な設定を記載



撮影年月：令和 2 年 11 月

【継続施設】【整備済】　【追加施設】　【構想】

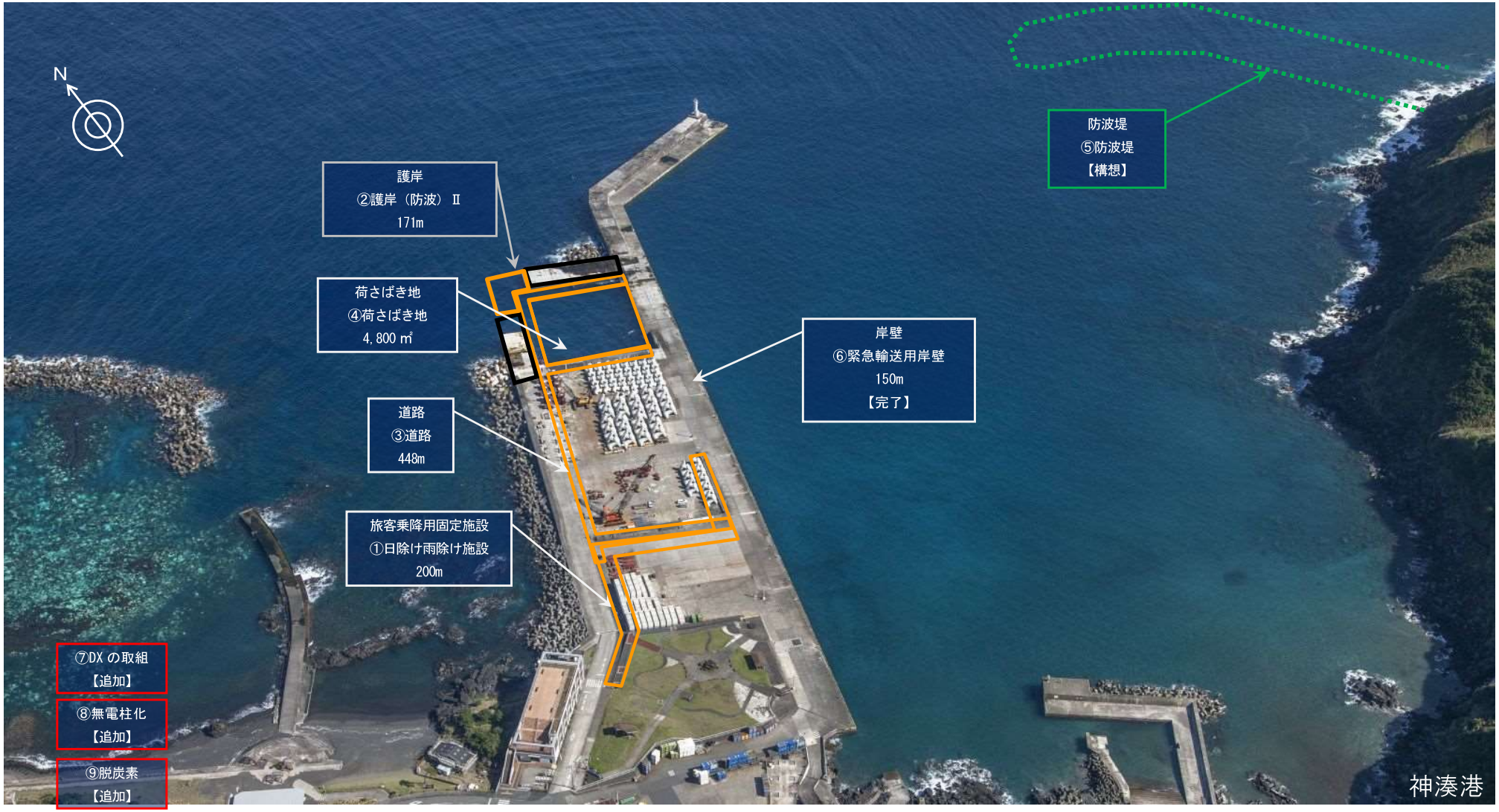
（９）神湊港

①整備計画の基本的な考え方

◇**<u>八丈島における物流・人流の拠点港</u>**として機能している
◇乗降と荷役の安全性・利便性・効率性の向上を目指して、**<u>護岸（防波）等の整備</u>**を行っている
◇一島二港方式で**<u>貨客船就航率９７．５％を目指す</u>**
◇情勢の変化に対する新たな取り組みとして、脱炭素、無電柱化等を検討する。

②具体的な課題・整備内容・効果等について

課　題	該当する基本方針と整備の方向性																整備する施設	期待される効果
	1.海上交通の充実		2.安全性･利便性の向上					3.地域振興への寄与			4.自然災害への対応				5.環境との調和･保全･活用			
	(1) 貨客船の就航率向上	(2) 高速ジェット船の就航率向上	(1) 乗降と荷役の安全性・利便性・効率性の向上	(2) ユニバーサルデザイン化への配慮	(3) 持続可能なインフラ管理	(4) 離島港湾DXの取組	(5) ICT技術による離島港湾工事の効率化	(1) 地域振興活動拠点の整備	(2) 小型船施設整備	(3) 賑わい創出の取組	(1) 噴火等の大規模自然災害への対応	(2) 津波への対応	(3) 気候変動への対応	(4) 無電柱化の推進	(1) 自然環境・周辺環境に配慮した施設整備	(2) 脱炭素の取組		
船舶乗降時の安全性･快適性の向上			○	○													①日除け雨除け施設【継続施設】	旅客乗降時のアクセス向上及び荷役動線との分離による旅客の安全性向上
荷役の安全性･効率性の向上			○														②護岸(防波)Ⅱ【継続施設】	越波抑制による港湾利用者の安全性の向上
			○														③道路【継続施設】	人流・物流の動線分離による安全性・効率性の向上
			○														④荷さばき地【継続施設】	荷役効率の向上
安定した岸壁利用が可能な港内静穏度の向上	○																⑤防波堤【構想】	静穏度及び利便性の向上
岸壁構造の強化											○						⑥緊急輸送用岸壁(-7.5m)【完了】	災害対処能力の向上（救援物資陸揚げや避難者輸送が可能）
デジタル技術による情報の収集・活用の推進						○											⑦DXの取組(ライブカメラ等)【追加】	DXによる効率化
停電・通信障害が発生しない島しょ地域の実現														○			⑧無電柱化【追加】	無電柱化による災害への対策
港湾関連施設から発生する温室効果ガス削減																○	⑨脱炭素等【追加】	温室効果ガスの削減



撮影年月：令和 2 年 11 月

【継続施設】【整備済】

【追加施設】

【構想】

（１０）八重根港

①整備計画の基本的な考え方

◇八重根漁港は八丈島の西部に位置し、**神湊港を補完する役割**を果たしている
◇一島二港方式で**貨客船就航率９７．５％を目指す**
◇情勢の変化に対する新たな取り組みとして、脱炭素、無電柱化等を検討する。

②具体的な課題・整備内容・効果等について

課　題	該当する基本方針と整備の方向性																整備する施設	期待される効果
	1.海上交通の充実		2.安全性･利便性の向上					3.地域振興への寄与			4.自然災害への対応				5.環境との調和･保全･活用			
	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)		
	貨客船の就航率向上	高速ジェット船の就航率向上	乗降と荷役の安全性・利便性の向上	ユニバーサルデザイン化への配慮	持続可能なインフラ管理	離島港湾DXの取組	ICT技術による離島港湾工事の効率化	地域振興活動拠点の整備	小型船施設整備	賑わい創出の取組	噴火等の大規模自然災害への対応	津波への対応	気候変動への対応	無電柱化の推進	自然環境・周辺環境に配慮した施設整備	脱炭素の取組		
停電・通信障害が発生しない島しょ地域の実現														○			①無電柱化【追加】	無電柱化による災害への対策
港湾関連施設から発生する温室効果ガス削減																○	②脱炭素等【追加】	温室効果ガスの削減

撮影年月：令和２年 11 月

【継続施設】【整備済】

【追加施設】

【構想】

（１１）青ヶ島港

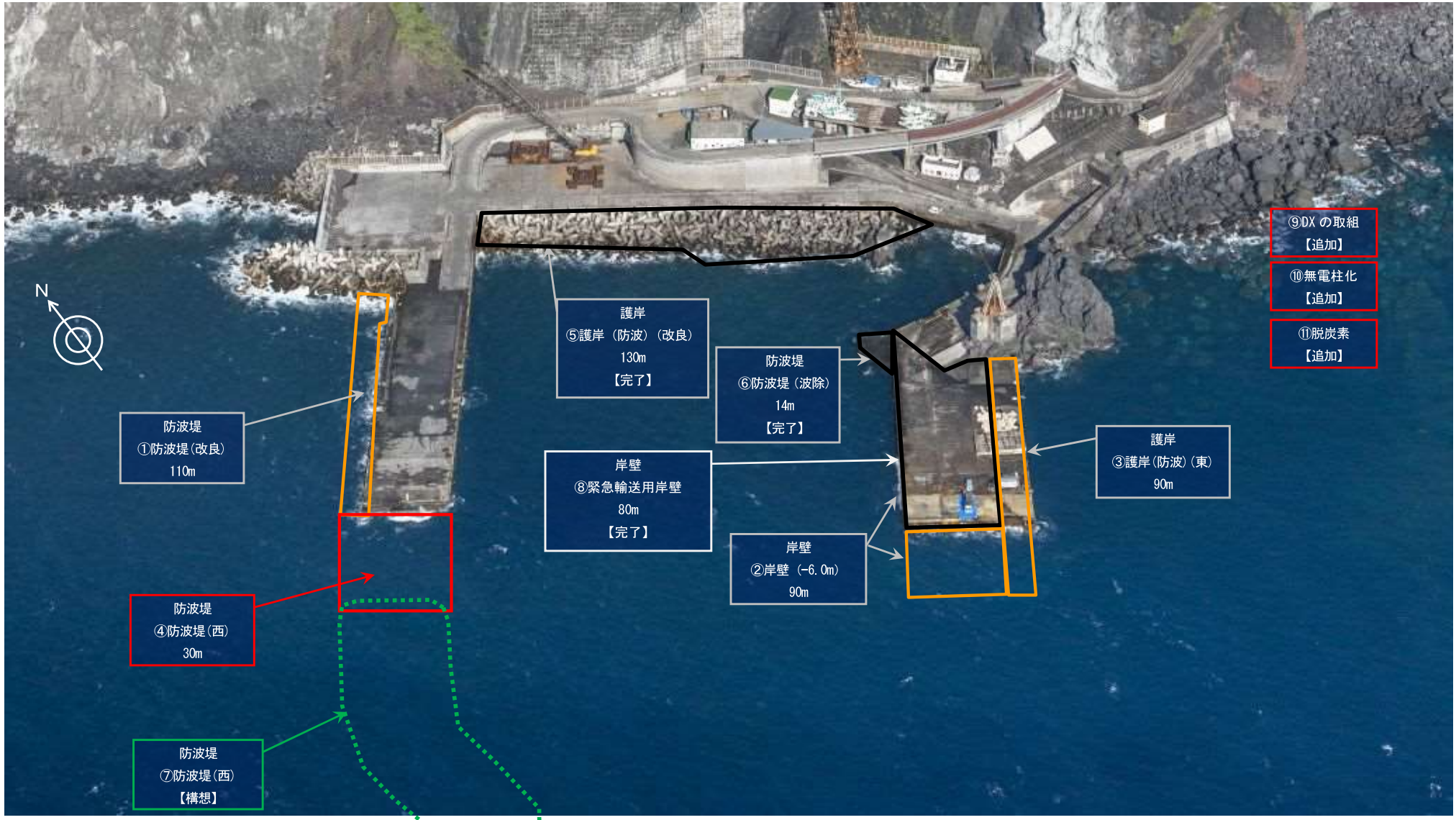
①整備計画の基本的な考え方

◇青ヶ島における**他地域との唯一の交流玄関港**であり、人流・物流の拠点として重要な役割を果たしている
◇一港二突堤方式で連続欠航ゼロを目指して貨客船就航率８６．５％※1 及び乗降と荷役の安全性・効率性の向上のため**２突堤目の岸壁等の整備**を行っている
◇就航率向上のため、防波堤（西）を整備する。
　青ヶ島港の就航率及び利用状況を踏まえ、これまでと同様、防波堤へ暫定接岸させる。
◇小型船施設の稼働率向上を目指した**防波堤（波除）の整備が完了**している
◇情勢の変化に対する新たな取り組みとして、気候変動への対応、脱炭素、無電柱化等を検討する。

②具体的な課題・整備内容・効果等について

課　題	該当する基本方針と整備の方向性																整備する施設	期待される効果
	1.海上交通の充実		2.安全性･利便性の向上					3.地域振興への寄与			4.自然災害への対応				5.環境との調和･保全･活用			
	(1)貨客船の就航率向上	(2)高速ジェット船の就航率向上	(1)乗降と荷役の安全性・利便性・効率性の向上	(2)ユニバーサルデザイン化への配慮	(3)持続可能なインフラ管理	(4)離島港湾DXの取組	(5)ICT技術の活用による離島港湾工事の効率化	(1)地域振興活動拠点の整備	(2)小型船施設整備	(3)賑わい創出の取組	(1)噴火等の大規模自然災害への対応	(2)津波への対応	(3)気候変動への対応	(4)無電柱化の推進	(1)自然環境・周辺環境に配慮した施設整備	(2)脱炭素の取組		
貨客船の連続欠航低減	○		○														①防波堤(改良)【継続施設】	越波抑制による港湾利用者の安全性の向上
	○																②岸壁(-6.0m)　【継続施設】	静穏度の向上(整備前 62%→整備後 69%)（1 港 2 突堤）※2
	○		○														③護岸(防波)(東)【継続施設】	静穏度の向上(整備前 62%→整備後 69%)（1 港 2 突堤）※2
	○		○										○				④防波堤(西)【追加施設】	静穏度の向上(整備前 65%→整備後 67%)（1 港 2 突堤）※3
	○												○				⑤防波堤(西)【構想】	静穏度及び利便性の向上
港湾施設への越波対策	○		○														③護岸(防波)(東)【継続施設】	岸壁への越波抑制による港湾利用者の安全性の向上
			○														⑥護岸(防波)(改良)【完了】	越波抑制による港湾利用者の安全性の向上
小型船施設の機能の向上									○								⑦防波堤(波除)　【完了】	小型船施設の静穏度向上
岸壁構造の強化											○						⑧緊急輸送用岸壁(-7.5m)【完了】	災害対処能力の向上（救援物資陸揚げや避難者輸送が可能）
停電・通信障害が発生しない島しょ地域の実現														○			⑨無電柱化【追加】	無電柱化による災害への対策
港湾関連施設から発生する温室効果ガス削減																○	⑩脱炭素等【追加】	温室効果ガスの削減
停電・通信障害が発生しない島しょ地域の実現														○			⑪無電柱化【追加】	無電柱化による災害への対策

※1 第 2 章 5. 船舶の就航率＜小離島におけるシビルミニマム（就航率と連続欠航数）＞より
※2 平成 28 年度計画策定時の算出結果
※3 参考資料４「１．貨客船の就航率向上」に詳細な設定を記載



撮影年月：令和 2 年 11 月

【継続施設】【整備済】

【追加施設】

【構想】

伊豆諸島港湾整備計画図

（１）元　　町　　港
（２）岡　　田　　港
（３）波　　浮　　港
（４）利　　島　　港
（５）新　　島　　港
（６）神　津　島　港
（７）三　　池　　港
（８）御　蔵　島　港
（９）神　　湊　　港
（10）八　重　根　港
（11）青　ヶ　島　港

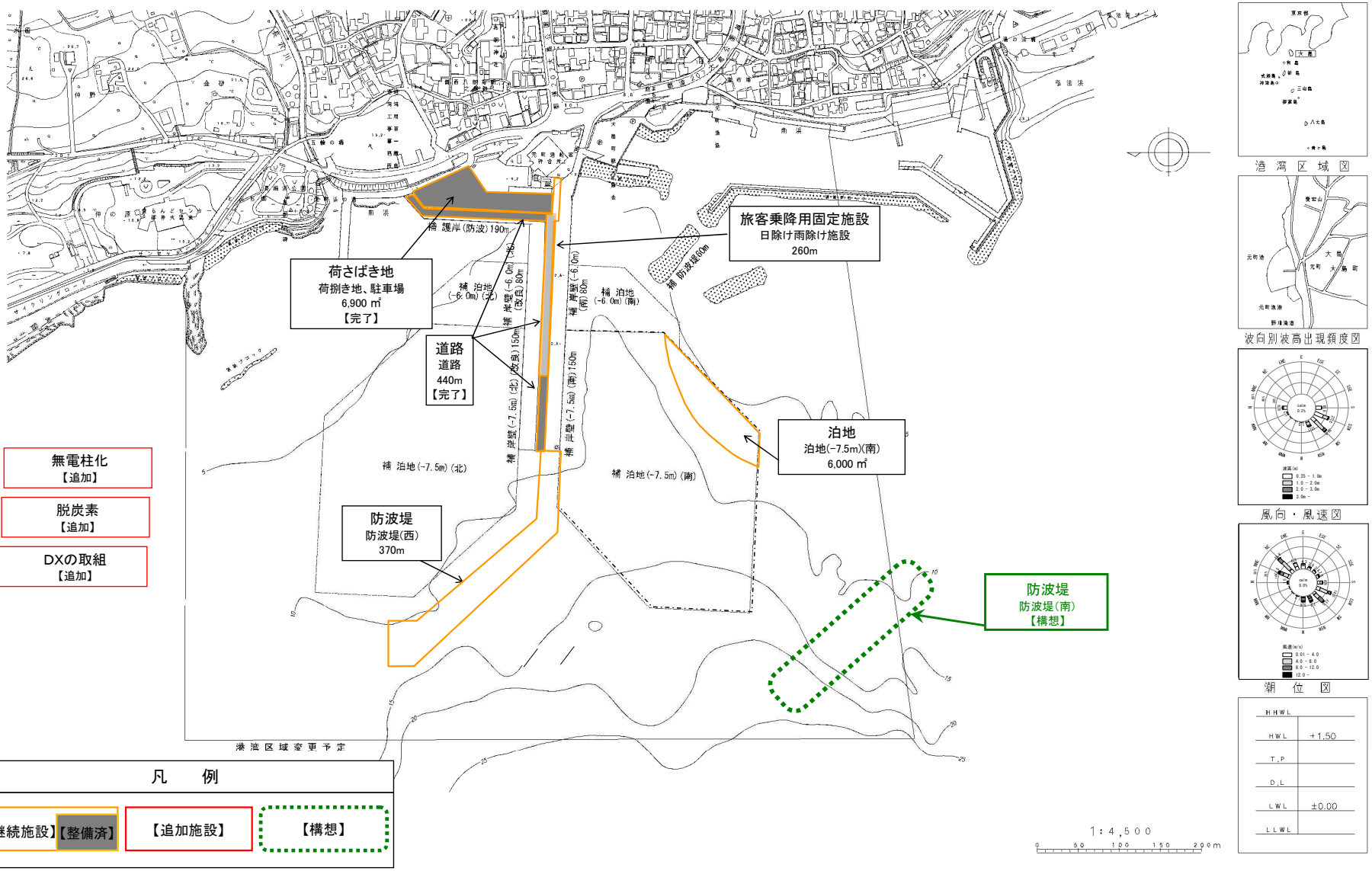
令和４年３月

東京都　港湾局　離島港湾部

（１）元町港　　整備計画図

元町港　整備計画図

管理者	所在地
東京都	東京都大島町元町（大島支庁管内）



無電柱化
【追加】

脱炭素
【追加】

DXの取組
【追加】

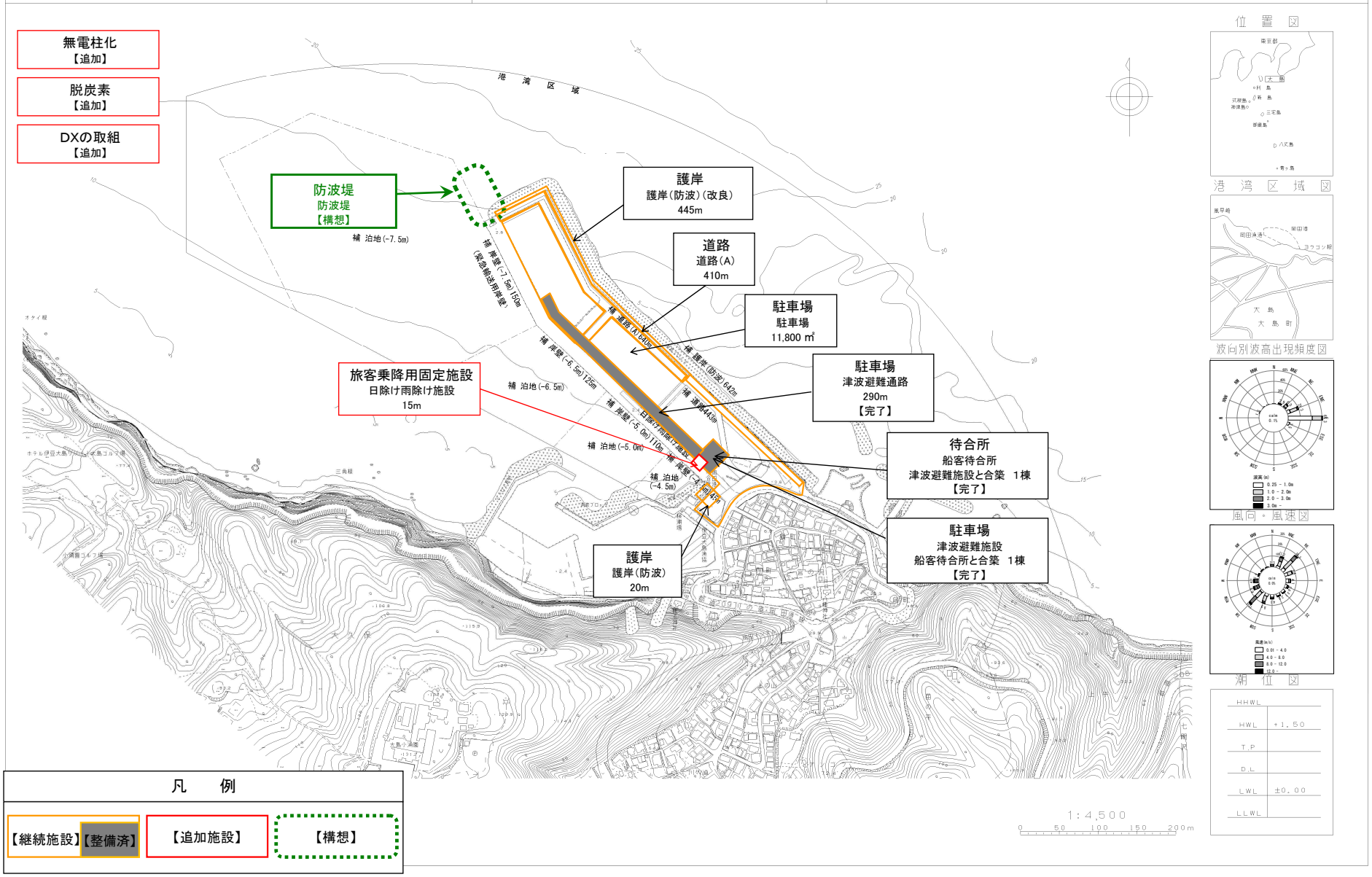
凡　例

【継続施設】【整備済】　【追加施設】　【構想】

（２）岡田港　　整備計画図

岡田港　整備計画図

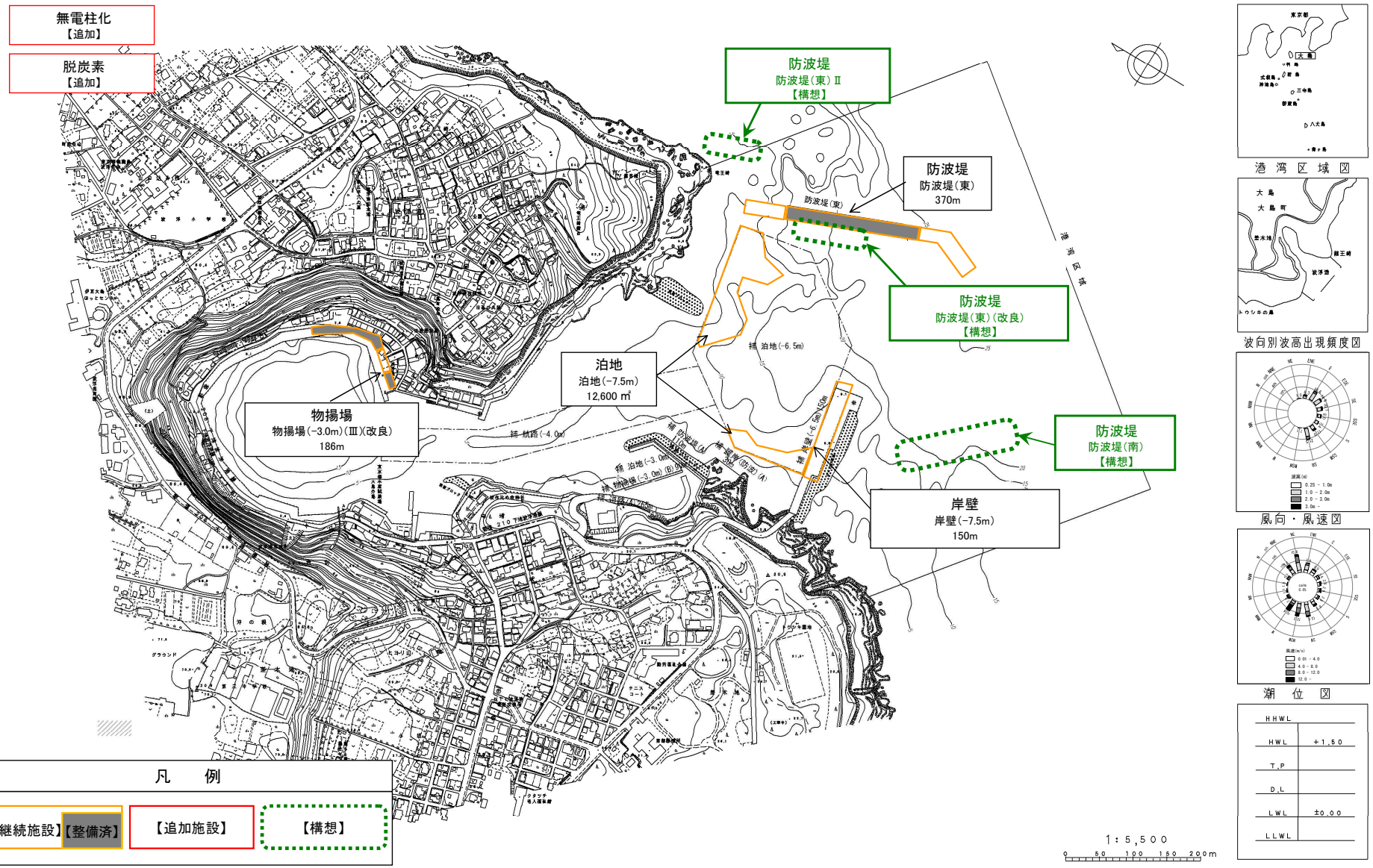
管理者	所在地
東京都	東京都大島町岡田（大島支庁管内）



（３）波浮港　　整備計画図

波浮港　整備計画図

管理者	所在地
東京都	東京都大島町波浮（大島支庁管内）



（４）利島港　　整備計画図

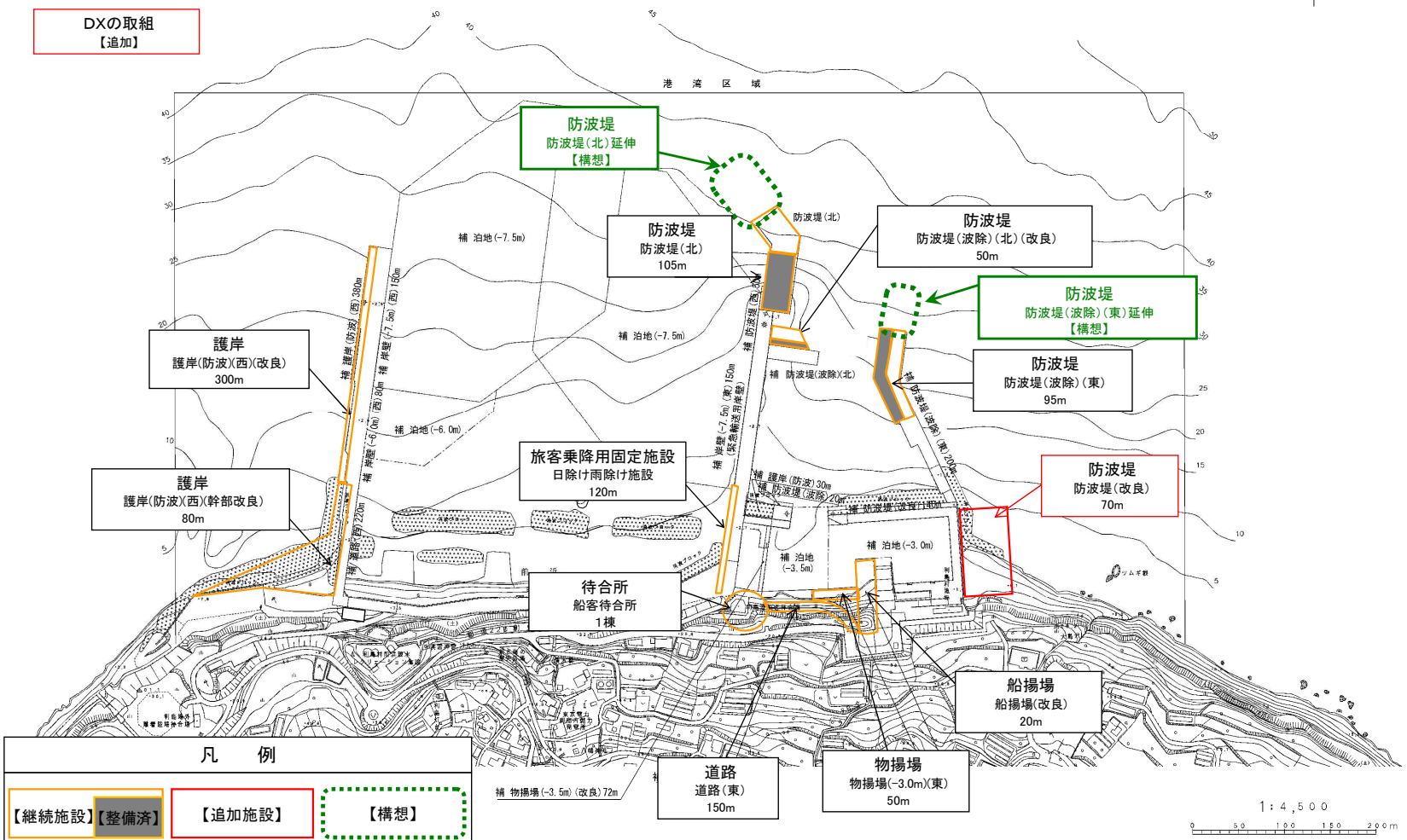
利島港　整備計画図

管理者	所在地
東京都	東京都利島村前浜（大島支庁管内）

無電柱化
【追加】

脱炭素
【追加】

DXの取組
【追加】

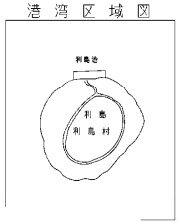


凡　例

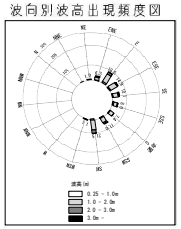
【継続施設】【整備済】　【追加施設】　【構想】

位置図

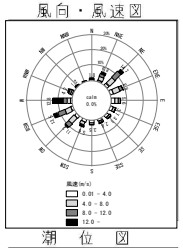
港湾区域図



波向別波高出現頻度図



風向・風速図



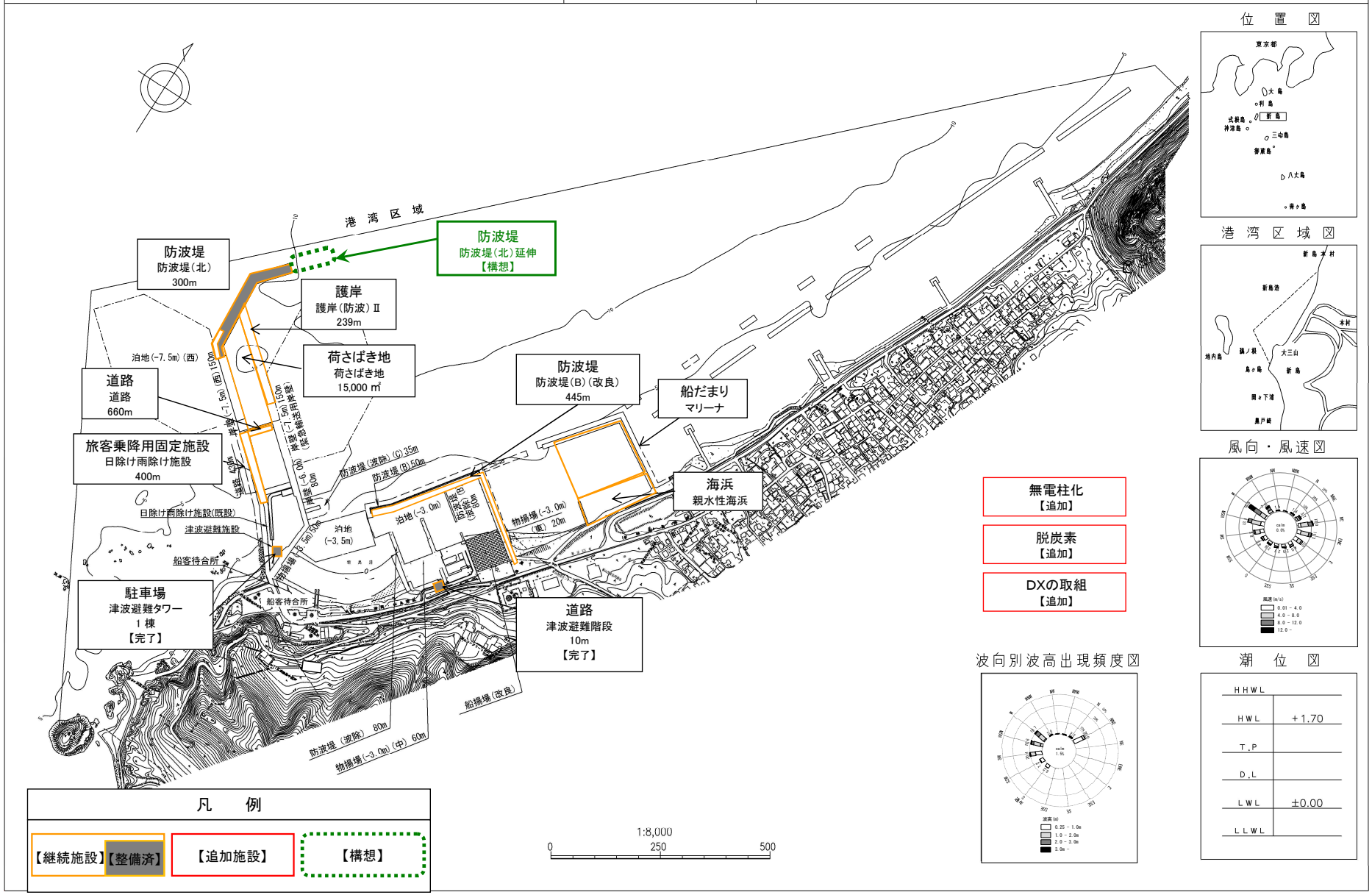
潮位図

HHWL	
HWL	+1.80
T.P	
D.L	
LWL	±0.00
LLWL	

（５）新島港　　整備計画図

新島港　整備計画図

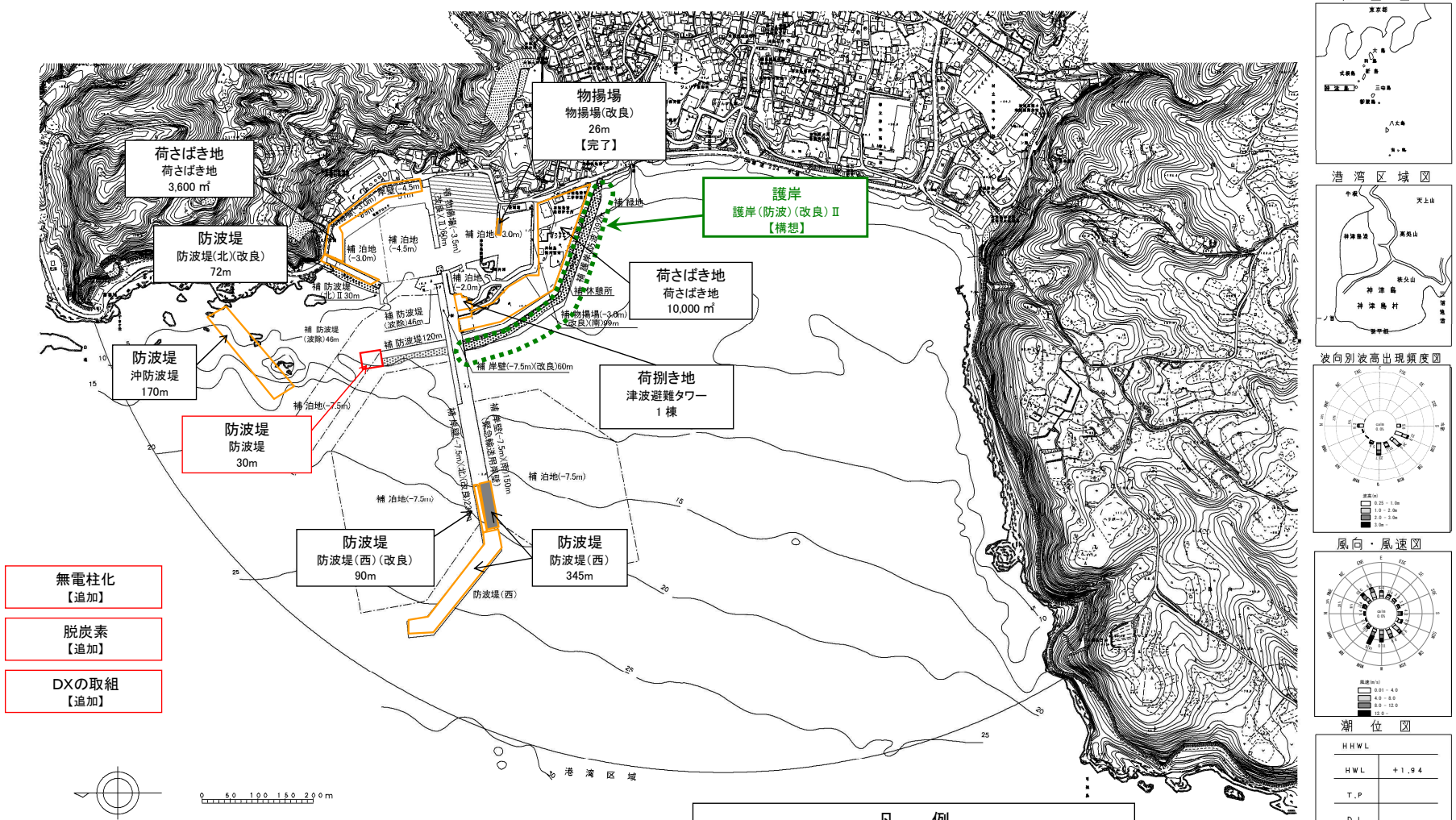
管理者	所在地
東京都	東京都新島本村前浜（大島支庁管内）



（６）神津島港　　整備計画図

神津島港　整備計画図

管理者	所在地
東京都	東京都神津島村前浜（大島支庁管内）

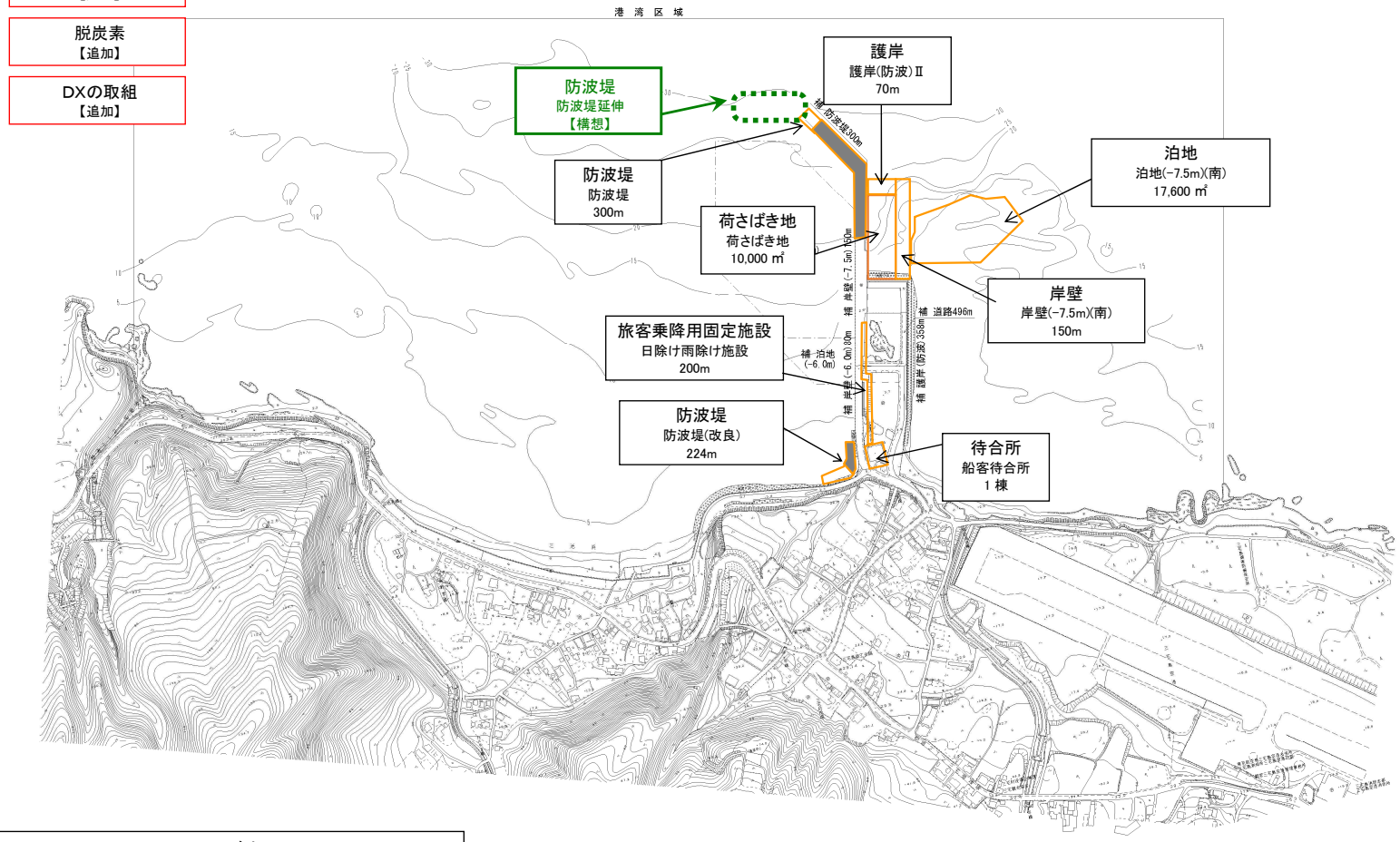


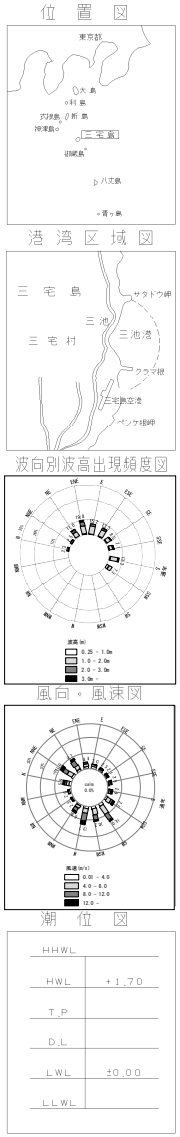
HHWL	
HWL	+1.94
T.P	
D.L	
LWL	±0.00
LLWL	

（７）三池港　　整備計画図

三池港　整備計画図

管理者	所在地
東京都	東京都三宅村沖ノ平（三宅支庁管内）



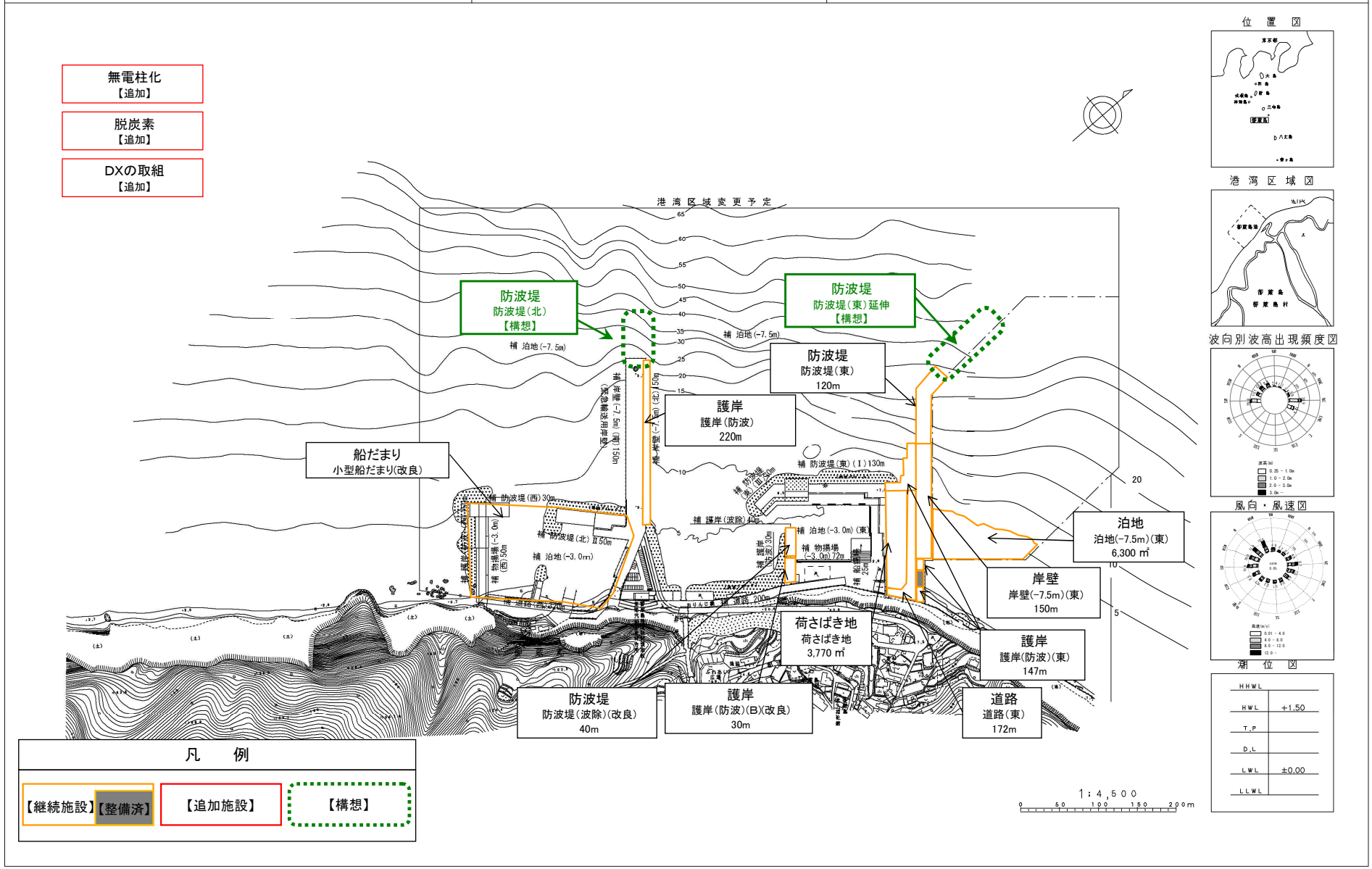


凡例		
【継続施設】【整備済】	【追加施設】	【構想】

1：7,500
0　50　100　150　200m

（８）御蔵島港　　整備計画図

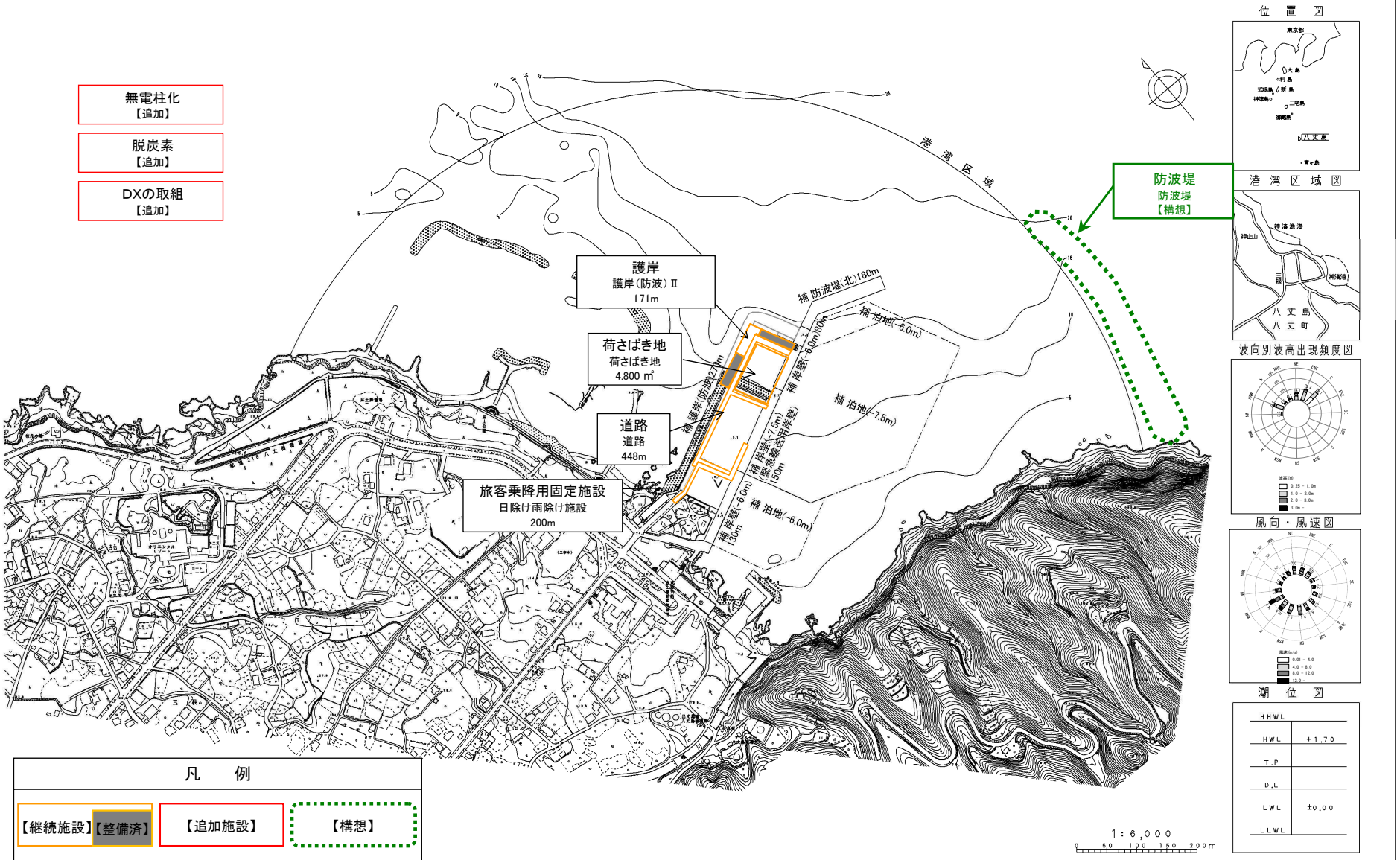
御蔵島港　整備計画図	管理者	所在地
	東京都	東京都御蔵島村里浜（三宅支庁管内）



（９）神湊港　　整備計画図

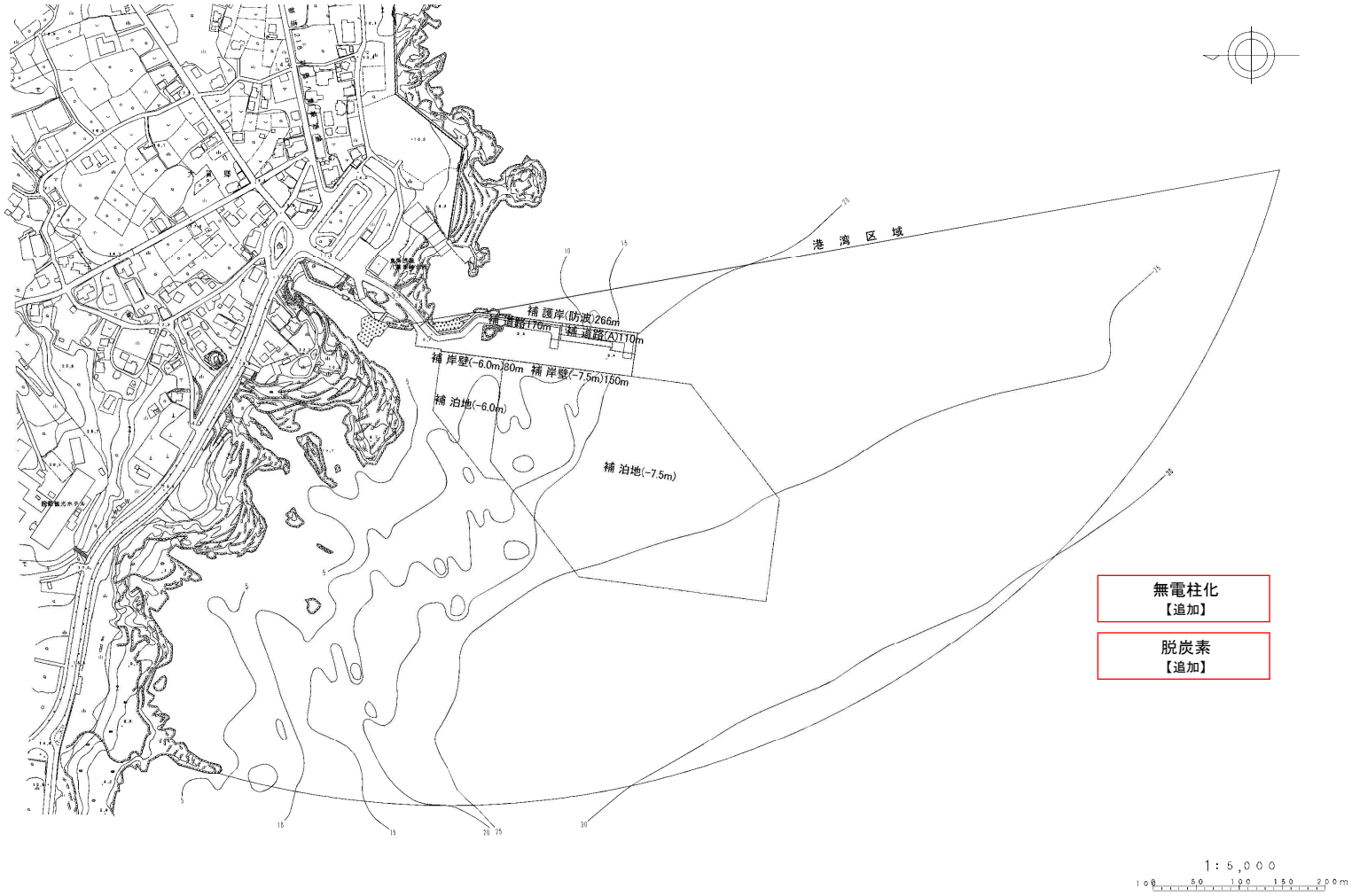
神湊港　整備計画図

管理者	所在地
東京都	東京都八丈町底土（八丈支庁管内）



（１０）八重根港　　整備計画図

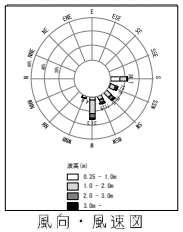
八重根港　整備計画図	管理者	所在地
	東京都	東京都八丈町大賀郷（八丈支庁管内）



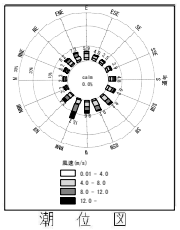
位置図

港湾区域図

波向別波高出現頻度図



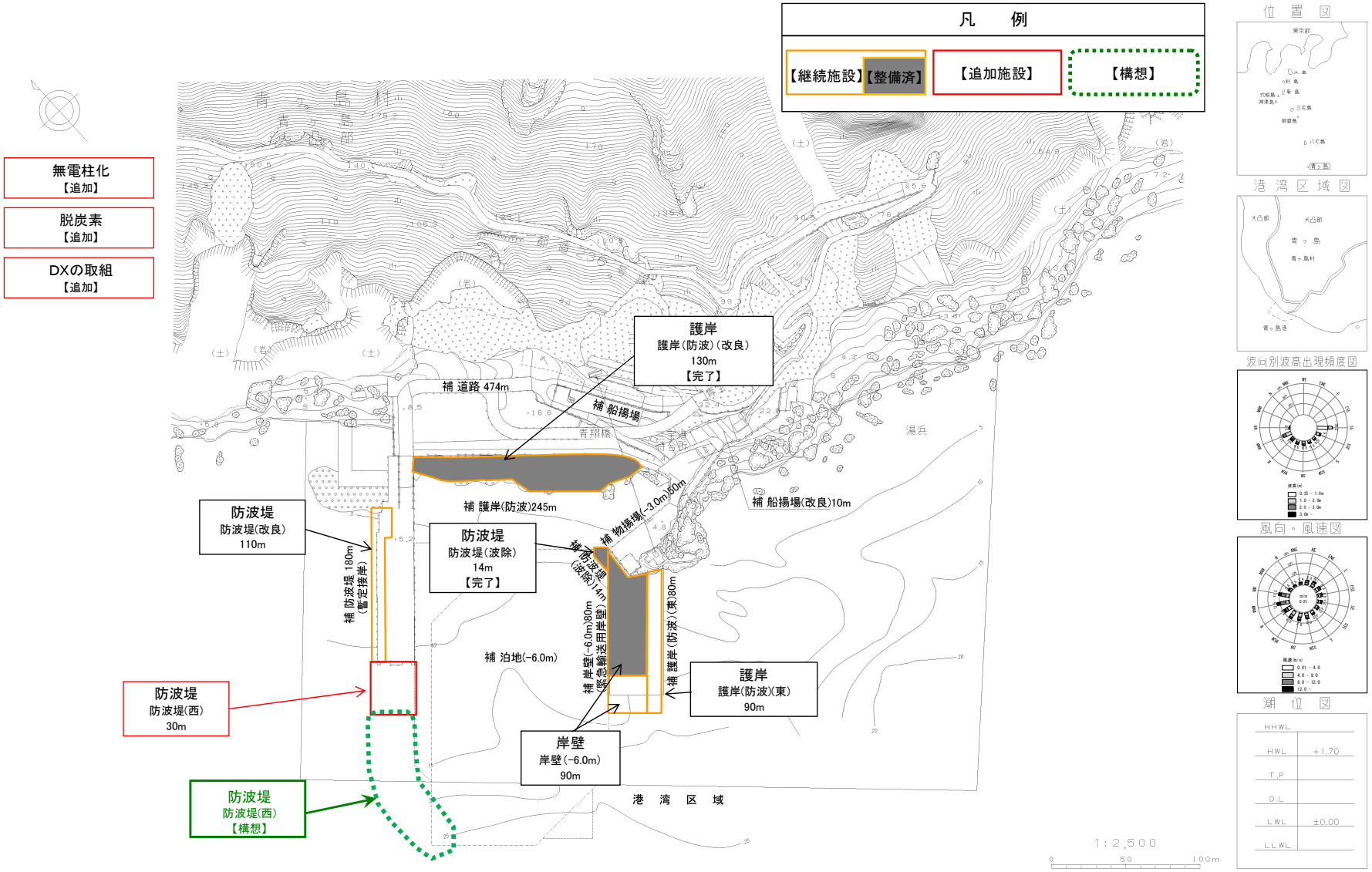
風向・風速図



潮位図

HHWL	
HWL	+1.70
T.P	
D.L	
LWL	±0.00
LLWL	

（１１）青ヶ島港　　整備計画図

青ヶ島港　整備計画図

管理者	所在地
東京都	東京都青ヶ島村三宝（八丈支庁管内）